

福島県文化財センター白河館

年報 2018

～平成29年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

福島県文化財センター白河館

年報2018発刊によせて

館長 菊池 徹夫

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は、「見て・触れて・考え・学ぶ体験型フィールドミュージアム」として2001年（平成13年）7月15日に開館し、2017年（平成29年）の9月には、開館以来の入館者数が50万人に達しました。2017年度の年間入館者数は28,102名を数え、学校に向向いて体験学習を実施する「おでかけまほろん」など館外活動の利用者の方々を含めると、総利用者数は34,462名と、震災後の落ち込みから着実に回復してきています。これもひとえに、県民の皆様のご理解とご支援の賜と感謝申し上げます。

まほろんは、県内の発掘調査で出土した遺物を保管するばかりでなく、昔の住居や人々の生活の様子を復元・展示しています。さらに、開館当初から事業の大きな柱としているのが、体験学習プログラムです。社会科授業の一環として多くの学校にも利用していただき、昔の技術を学び、生きた歴史学習ができる施設として評価をいただいています。2017年11月18日・19日には、日頃ご来館いただいているお客様に感謝の意を表すイベントとして、「ありがとう50万人！まほろん大感謝祭」を実施いたしました。この行事を通じて、文化財の保護・活用に関する関心を高めていただくとともに、当館への親近感や文化財への理解をよりいっそう深めていただきました。

また、指定文化財展「はにわ行進曲」をはじめ、4回の企画展を開催しました。この企画展では、展示パネルを子どもたちが制作し、子どもたちによる展示解説会を行うという初めての試みも実施しました。

さらに、これら企画展と関連させながら文化財講演会や文化財研修を開催し、理解が深まるよう努めるとともに、季節ごとに行うイベントでは、古代の人々の生活に触れることができるよう、様々な体験コーナーを用意して、大勢の方々に喜んでいただきました。

2011年（平成23年）3月の東日本大震災発生以来、福島県の住民の暮らしは、大きな変化を余儀なくされています。伝統文化の担い手や後継者の減少により、多年にわたり地域に根付いた文化芸術活動や文化財を維持し、継承していくことが困難な状況も多く見られます。まほろんにおいては、東日本大震災からの復興に資する文化財展や、子ども向け・団体向けの各種体験活動プランの作成、文化財の保護活用に関する専門研修など、文化復興に資する事業企画を、総合的見地から展開してきました。今後とも、見て・触れて・考え・学ぶ「場」として、その役割の一端を担っていこうと考えています。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



入館者50万人記念セレモニー



子どもたちによるはにわ解説会

目 次

第1章 まほろんの概要	8 ボランティアの運営
1 まほろんの業務	1 募集
2 まほろんの沿革	2 登録
3 平成29年度の主な行事	3 活動内容
4 東日本大震災の影響	4 受け入れ体制
	9 その他
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況	1 年報2017の発行
1 利用状況	2 運営協議会の開催
1 利用者数	3 博物館実習
2 入館者数の内訳と傾向	4 被災ミュージアム再興事業
2 維持管理に関する業務	5 他機関との連携
1 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	第3章 平成29年度の組織と管理運営費
2 施設・設備等の修繕状況	1 組織
3 備品・物品管理業務	2 管理運営費
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	第4章 まほろん施設の概要
1 収蔵資料	第5章 まほろんの条例・規則
2 資料貸し出し	1 福島県文化財センター白河館条例
3 写真掲載等承認	2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則
4 資料閲覧	まほろんの利用案内
4 文化財の活用に関する業務	
1 常設展示	
2 企画展示	
3 講演会等	
4 体験学習・イベント	
5 文化財に関する情報発信	
1 ホームページによる情報発信	
2 データベースによる情報提供	
3 まほろん通信の発行	
6 文化財に関する研修事業	
1 研修事業の概要	
2 研修実施状況	
7 文化財の活用に関する調査研究	
1 放射性炭素年代測定と炭素窒素 安定同位体比分析	
2 研究紀要	

第1章 まほろんの概要

1 まほろんの業務

まほろん（福島県文化財センター白河館）は、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館した。

まほろんは、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県では、開館から平成17年度まで財団法人福島県文化振興事業団に業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入して、管理の業務を行う法人等を広く公募し、平成18年度から平成20年度まで（第1期）、平成21年度から平成25年度まで（第2期）、財団法人福島県文化振興財団（平成24年10月に名称変更）が管理業務を行った。

平成26年度から平成30年度まで（第3期）は、公益財団法人福島県文化振興財団が指定管理者として管理業務を行っている。

指定管理者が行う業務は、以下のとおりである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持補修及び管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

まほろんは貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、「見て・触れて・考え・学ぶ」体験型ミュージアムを目指している。

2 まほろんの沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日

東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。

4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫館長就任

平成23年5月1日

震災被害により使用できなくなった一般収蔵

庫及び野外展示施設を除き、再開館

平成24年4月15日

野外展示施設修繕完了、使用を再開

平成24年5月3日

一般収蔵庫修繕完了、使用を再開

平成24年5月19日

開館10周年記念事業を実施

平成26年2月8日 入館者40万人到達

平成27年12月5日 入館者45万人到達

平成28年9月25日

開館15周年記念事業を実施

平成29年9月2日 入館者50万人到達

3 平成29年度の主な行事

平成29年4月5日～5月7日

収蔵資料展「縄文土器の年代Ⅱー縄文中期の世界に迫るー」後期展

平成29年5月4日～6日 GWまほろんまつり

平成29年6月4日

野外展示と植物の見学会（夏）

平成29年6月24日～8月27日

ふくしま復興展1「編む・組む・削るー植物利用の技術史ー」

平成29年7月30日 まほろん夏まつり



まほろん夏まつり「発掘体験2 フルってさがそう!!」

平成29年8月11日～16日

まほろんスケッチコンテスト

平成29年9月30日～11月26日

指定文化財展「はにわ行進曲」

平成29年10月1日

野外展示と植物の見学会（秋）

平成29年11月18日・19日

ありがとう50万人！まほろん大感謝祭

平成29年12月16日～3月18日

ふくしま復興展2「被災地の文化財 双葉高校史学部の歩み」

平成30年2月18日 まほろん冬まつり



「はにわ行進曲」チラシ

4 東日本大震災の影響

福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した博物館の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を当館の敷地内に設置している。本施設には、福島県被災文化財等救援本部により救出された、富岡町歴史民俗資料館・大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成29年度の総利用者数は、34,462名（平成28年度35,217名）で、前年度に比べ755名の減少となった。入館者数は、28,102名（平成28年度29,341名）、館外利用者数は、6,360名（平成28年度5,876名）であった。

入館者数については、前年度に比べ団体入館者が減少したものの、個人入館者は前年度並みの20,491名であった。ゴールデンウィークや季節毎に開催する「まほろんイベント」の延べ入館者数は、4,461名（平成28年度4,590名）と前年度に迫る入館者数となった。

館外利用については、小中学校等の教育機関を対象とする「おでかけまほろん」を35箇所、公民館等の生涯学習施設を対象とする「まほろん出前講座」を5箇所、地域のイベント等を対象とする「まるごとまほろん」を6箇所で開催した。館のPR活動を兼ねた館外活動を積極的に行った結果、これらの人数は4,532名（平成28年度3,422名）となり、前年度から1,110名増加し、その他の研修会等を含めた館外利用者

の総数は前年度に比べ、484名増加した。

2. 入館者数の内訳と傾向

入館者数は、28,102名（平成28年度29,341名）となった。

（1）地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が23,747名（平成28年度24,494名）で84.5%（平成28年度83.5%）、県外が4,355名（平成28年度4,847名）で15.5%（平成28年度16.5%）であった。県外入館者数は前年度に比べ492名減少したが、県内の入館者数23,747名のうち、白河市内からの入館者数は11,406名で、過去最高の割合となる40.6%（平成28年度36.5%）を記録した。

（2）年齢別利用状況

幼児・小中学生・高校生が11,488名で、入館者全体の40.9%（平成28年度41.3%）、一般の入館者数は16,614名で、高校生以下の入館者の割合が前年度に比べ減少したが、幼児の入館者数は2,641名（平成28年度2,283名）と増加した。

月別入館者数

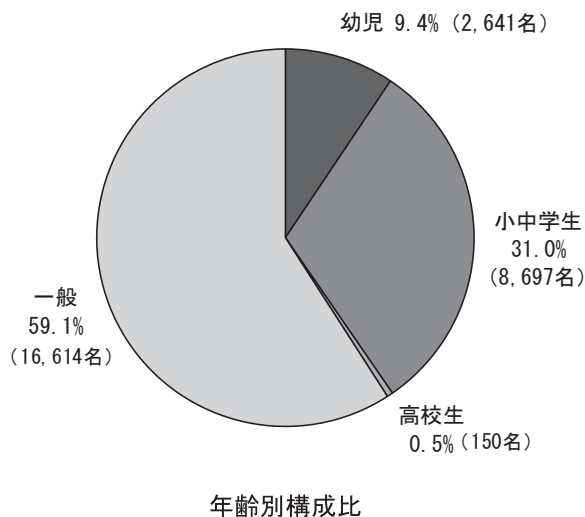
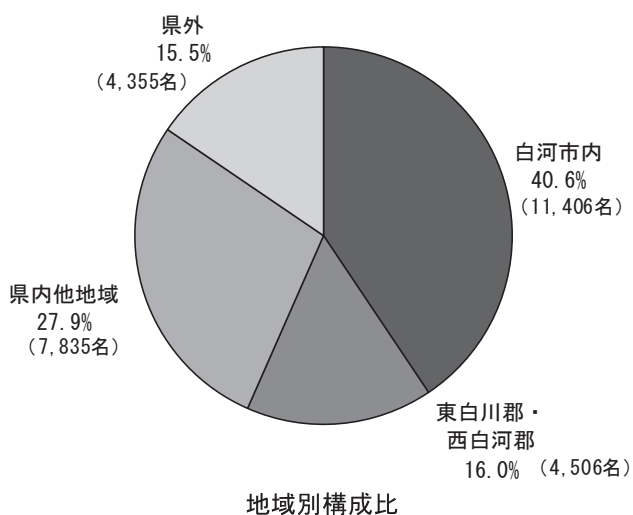
平成29年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	平成28年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	1,127	1,249	2,204	172	2,376	259	2,635	2,130	396
5月	1,417	1,866	2,764	519	3,283	166	3,449	3,986	224
6月	1,598	1,378	2,481	495	2,976	1,607	4,583	2,949	1,272
7月	1,416	1,644	2,321	739	3,060	275	3,335	3,540	303
8月	1,178	1,723	1,952	949	2,901	1,563	4,464	2,702	105
9月	1,203	1,150	1,907	446	2,353	140	2,493	2,977	178
10月	662	1,252	1,659	255	1,914	2,205	4,119	2,369	1,609
11月	810	1,701	2,204	307	2,511	98	2,609	1,965	1,729
12月	291	1,110	1,309	92	1,401	18	1,419	1,281	14
1月	467	976	1,353	90	1,443	0	1,443	1,084	28
2月	961	1,587	2,391	157	2,548	0	2,548	2,391	0
3月	358	978	1,202	134	1,336	29	1,365	1,967	18
合計	11,488名	16,614名	23,747名	4,355名	28,102名	6,360名	34,462名	29,341名	5,876名

(3) 団体利用状況

入館した団体数は207団体（平成28年度は232団体）、団体による来館者数は7,611名（平成28年度8,821名）となり、前年度から1,210

名減少した。

団体利用のうち、学校関係は5,374名（平成28年度5,917名）で、前年度から543名減少した。



団体利用者一覧

団体		平成29年度												平成28年度		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計	
学校関係	幼稚園・保育園	園数		1		1				1	1			1	5	3
		来館者数		22		10				26	37			15	110	81
	小学校	学校数	12	11	28	8	1	12	3			5	5		85	89
		来館者数	603	256	1,598	455	92	797	245			195	193		4,434	4,690
	中学校	学校数	1			1		1							3	5
		来館者数	184			37		195							416	369
	高等学校	学校数														4
		来館者数														118
	養護学校	学校数														1
		来館者数														39
大学	学校数			1		2			1	1				5	1	
	来館者数			32		80			19	11				142	14	
幼小中高PTA(保護者のみ)	学校数														1	
	来館者数														14	
幼小中高PTA(親子レク等)	学校数				2		1	1	1					5	8	
	来館者数				115		31	101	25					272	592	
生涯学習関係	研究会	会数						1							1	
		来館者数						28							28	
	子ども会	会数			1	4	1								6	6
		来館者数			13	280	55								348	197
公民館等	館数			1	1	5	2	4	5	2		1		21	23	
	来館者数			20	26	108	50	96	94	34		33		461	623	
社会福祉関係	福祉施設・デイケアサービス	団体数	3	1		1	3	1	3	10	4		3	5	34	31
		来館者数	68	24		28	21	8	45	114	30		19	55	412	366
文化団体関係	資料館等	館数						1							1	5
		来館者数						20							20	102
	歴史研究	団体数								1					1	1
来館者数									25					25	26	
行政機関関係	県・市町村・教委・審議会等	団体数		2	1					1			1		5	5
		来館者数		23	4					20			43		90	159
その他	その他	団体数	2	3	10	3	5	2	3	4	3				35	49
		来館者数	24	78	200	69	233	21	54	94	80				853	1,431
合計	団体数	18	18	42	21	17	19	16	24	11	5	10	6	207	232	
	団体来館者数	879	403	1,867	1,020	589	1,102	589	417	192	195	288	70	7,611	8,821	
総来館者数		2,376	3,283	2,976	3,060	2,901	2,353	1,914	2,511	1,401	1,443	2,548	1,336	28,102	29,341	
団体利用者の割合(%)		36.99%	12.28%	62.74%	33.33%	20.30%	46.83%	30.77%	16.61%	13.70%	13.51%	11.30%	5.24%	27.08%	30.06%	

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務
常光サービス(株)
- (2) 消防用設備等保守点検業務
大槻電気通信(株)
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
常光サービス(株)
- (4) 自動ドア保全業務
常光サービス(株)
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務
(一財)東北電気保安協会
- (6) 展示用及び講堂用AV機器保守点検業務
(株)オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務
(有)白河園芸総合センター
- (8) 清掃業務
(株)タイセークリーン
- (9) 警備業務
ALSOK福島(株)
- (10) 電話設備等点検業務
(株)ユニテック
- (11) 除雪業務
(有)猪越土木

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 平成29年8月10日
駐車場入口設置看板修繕
- (2) 平成29年8月26日
警備員室エアコン修繕
- (3) 平成29年9月15日
野外展示「奈良時代の倉庫」屋根修繕
- (4) 平成29年12月13日
常設展示室防火戸修繕
- (5) 平成29年12月26日
体験広場散水栓ボックス修繕
- (6) 平成30年1月31日
消防用設備等修繕

- (7) 平成30年2月6日
事務室給湯器漏水修繕
- (8) 平成30年2月9日
自動制御監視装置更新工事(福島県直轄事業)
- (9) 平成30年2月20日
空調加湿用給水設備等修繕
- (10) 平成30年2月23日
特別展示室防火戸修繕
- (11) 平成30年2月28日
野外展示「平安時代の製鉄炉」屋根修繕
- (12) 平成30年3月1日
休憩室洗面台修繕
- (13) 平成30年3月12日
特別収蔵庫フィルターユニット修繕
- (14) 平成30年3月12日
南側出入口扉ヒンジ修繕



平安時代の製鉄炉

3. 備品・物品管理業務
基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺物	写真	図面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(箱)
一般収蔵庫	46,474	3,135	1,093	520	10	51,232
特別収蔵庫	711					711
合計	47,185	3,135	1,093	520	10	51,943

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大66,000箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺物 (13件)

貸出期間	貸出先	資料名	数量(点)
平29.4.1～平30.3.31	須賀川市立博物館 (常設展示)	須賀川市梅田横穴古墳須恵器	1
平29.4.1～平30.3.31	郡山市教育委員会 (大安場史跡公園常設展示)	郡山市弥明遺跡出土石器	5
平29.4.1～平30.3.31	東北電力株式会社原町火力発電所	南相馬市鳥打沢A遺跡出土土師器ほか	24
平29.4.1～平30.3.31	福島県立博物館 (常設展示：古代)	郡山市正直A遺跡石製紡錘車 他	18
平29.4.1～平30.3.31	白河市歴史民俗資料館 (常設展示「白河の歴史と文化」)	白河市一里段A遺跡出土石器ほか	5
平29.4.1～平30.3.31	福島県立博物館 (常設展示)	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,232
平29.4.1～平30.3.31	福島県立博物館 (「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」)	飯館村羽白C遺跡出土縄文土器ほか	580
平29.8.31～平29.10.17	磐梯町磐梯山慧日寺資料館 (テーマ展「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」)	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	27
平29.9.15～平30.3.31	九州国立博物館兼福岡県立アジア文化交流センター (文化交流展示)	会津若松市一ノ堰B遺跡出土土器	1
平29.9.20～平29.12.7	新潟市文化財センター (企画展「古墳時代のお祭り」)	郡山市正直A遺跡石製模造品ほか	207
平29.9.28～平29.12.21	福島県立博物館 (企画展「発掘ふくしま4」)	三春町柴原A遺跡注口浅鉢片ほか	148
平29.10.18～平29.12.15	大安場史跡公園管理センター (企画展「遺跡と災害」)	相馬市段ノ原B遺跡出土土器ほか	32
平30.2.2～平30.3.31	東北歴史博物館 (特別展「東大寺と東北」)	玉川村江平遺跡出土横笛ほか	2
		合計	2,282

(2) 模型及びレプリカ (5件)

貸出期間	貸出先	資料名	数量(点)
平29.4.1～平30.3.31	福島県立博物館 (常設展示)	銅鐘ほか	10
平29.4.1～平30.3.31	磐梯町磐梯山慧日寺資料館 (テーマ展「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」)	磐梯町法正尻遺跡復元地形模型ほか	11
平29.9.12～平29.9.26	郡山市文化・学び振興公社 (文化財確認調査)	郡山市正直B遺跡周辺1/1,000地形図	6
平29.10.1～平29.12.7	小山市立博物館 (企画展「古代の製鉄遺跡群」)	白河軍団兵士ほか	4
平30.2.2～平30.3.31	東北歴史博物館 (特別展「東大寺と東北」)	玉川村江平遺跡出土横笛ほか	6
		合計	37

3. 写真掲載等承認 (27件)

承認日	申請者 (掲載刊行物等)	資料名	数量(点)
平29.4.16	古河歴史博物館 (古河市広報誌5月1日号)	白河館製鉄風景ジオラマ写真	1
平29.4.25	明治図書出版株式会社 (『5科の総仕上げ1年』)	猪苗代町法正尻遺跡出土縄文土器	1
平29.4.25	朝日新聞出版書籍編集部 (『復興の歴史を掘る』)	相馬市段ノ原B遺跡全景写真ほか	1
平29.5.9	森田玲 (株式会社民謡『日本の音 篠笛事始め』)	玉川村江平遺跡出土横笛接合図	1
平29.5.10	朝日新聞出版書籍編集部 (『復興の歴史を掘る』)	相馬市段ノ原B遺跡地割れ写真	1
平29.6.23	N T T ドコモ栃木支店 (タブレットを利用した校外学習シーン撮影)	那須町高久小学校のタブレットを利用した校外学習シーン	1
平29.6.27	新潟市埋蔵文化財センター所長 (古津八幡山弥生の丘展示館企画展「鐵 北陸の鉄生産」)	南相馬市鳥打沢A遺跡製鉄炉写真ほか	20
平29.6.27	福田秀生 (公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部ホームページ 研究コラム)	矢吹町弘法山古墳群ガラス玉写真ほか	4

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資料名	数量 (点)
平29.7.14	小山市立博物館（企画展「古代の製鉄遺跡群 渡良瀬遊水池周辺の大地に刻まれた歴史を探る」）	「福島県文化財センター白河館研究紀要2006」写真図版ほか	11
平29.7.21	朝日カルチャーセンター千葉教室	相馬市段ノ原B遺跡地割れ写真（転載）	1
平29.8.3	小山市立博物館（企画展「古代の製鉄遺跡群 渡良瀬遊水池周辺の大地に刻まれた歴史を探る」）	白河軍団兵士写真ほか	4
平29.8.14	株式会社淡交社東京支社（『福島の磨崖仏・鎮魂の旅へ』）	南相馬市金沢地区製鉄遺跡写真ほか	5
平29.8.31	大安場史跡公園管理センター（企画展『遺跡と災害』）	相馬市段ノ原B遺跡地割れ写真	2
平29.9.10	福島県立博物館（企画展『発掘ふくしま4』）	三春町柴原A遺跡出土注口浅片写真ほか	59
平29.9.26	いわき市考古資料館（特別展『東京特立博物館が所蔵するいわき出土の古墳遺物』）	「まほろん夏のてんじ 金の冠 鐵のかぶ」と一東京国立博物館収蔵資料に見る「ふくしまの古墳時代一」図版	4
平29.11.24	NHK名古屋放送局（平成29年11月30日放送 東海地方ニュース番組）	三春町柴原A遺跡土偶写真	1
平29.11.29	合同会社浩然社（株式会社東西社『超ビジュアル！日本の合戦』）	白河軍団兵士写真	2
平29.12.20	新泉社（シリーズ「遺跡を学ぶ」124『笹山遺跡』）	磐梯町法正尻遺跡出土深鉢写真	1
平29.12.22	いわき市考古資料館（企画展『道具の歴史4』）	いわき市白岩堀ノ内遺跡出土鉄鎌写真	2
平30.1.5	歴史春秋出版株式会社（目下部善己著『ふるさと福島の歴史と文化～広重筆「陸奥安達百目木八景園」の誕生』）	伊達市森山・藤田付近の条里遺構（『伊達西部条里遺構V』）写真	1
平30.1.16	会津美里町教育委員会（『会津美里町歴史副読本』）	縄文時代の家、奈良時代の家写真	2
平30.1.21	北斗印刷株式会社（南会津町副読本『みなみあいつ町ベディア』）	体験活動（火おこし）写真	1
平30.2.6	東京国立博物館（特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」図録）	郡山市荒小路遺跡土偶写真	1
平30.2.17	株式会社クリエイティブネクサス（NHK-BS「英雄たちの選択」）	会津若松市神指城跡遺構写真	2
平30.2.21	柏崎市立博物館（展示解説パネル）	獣脚付容器（復元品）写真	1
平30.2.22	熊谷市教育委員会（『熊谷市史通史編』原始・古代・中世）	会津若松市一ノ堰B遺跡遺構写真	1
平30.3.9	国立歴史民俗博物館（総合展示室「先史・古代」グラフィックパネル）	古代製鉄復元模型写真	1
		合計	132

4. 資料閲覧

(1) 遺物（16件）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資料名	数量 (点)
平29.5.29	県内研究者（調査研究）	須賀川市早稲田古墳群出土ガラス玉ほか	628
平29.6.22	県外研究者（企画展の事前調査）	白河軍団兵士（武人）	5
平29.6.27	県内研究者（企画展の事前調査）	相馬市段ノ原遺跡B遺跡出土土器ほか	130
平29.7.9	県内研究者（調査研究）	相馬市善光寺遺跡出土瓦	154
平29.7.19	県外研究者（企画展の事前調査）	白河軍団兵士（旅人）ほか	8
平29.7.23	県内研究者（調査研究）	泉崎村観音山横穴墓群出土鉄刀	1
平29.8.29	県内研究者（企画展の事前調査）	会津若松市一ノ堰B遺跡	1
平29.9.2	県内研究者（調査研究）	三春町柴原A遺跡出土土器片ほか	215
平29.9.8	県外研究者（企画展の事前調査）	玉川村江平遺跡出土品ほか	5
平29.9.16	県内研究者（調査研究）	磐梯町法正尻遺跡ほか	8
平29.10.4	県外研究者（調査研究）	玉川村江平遺跡出土笛ほか	1
平29.10.22	県外研究者（調査研究）	磐梯町法正尻遺跡石器ほか	83
平29.10.25	県外研究者（調査研究）	石川町七郎内C遺跡琥珀玉ほか	169
平29.11.24	県内研究者（調査研究）	泉崎村観音山横穴墓群出土鉄刀	1
平29.11.28	県外研究者（調査研究）	白河市筑内古墳群出土馬具ほか	30
平30.3.15～16	県外研究者（調査研究）	飯館村岩下A遺跡出土土器ほか	344
		合計	1,783

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ① 「土器年代測定結果公開コーナー」
- ② 「探してみよう福島の文化財」
- ③ 「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)
- ④ 「ふくしまの宝物」

2) 常設展示室

- ① 「めぐみの森」
- ② 「暮らしのうつりかわり」
 - 〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
 - 〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
 - 〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
 - 〈旧石器時代〉

- ③ 「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉

- ④ 「遺跡を掘る」
- ⑤ 「みんなの研究ひろば」
- ⑥ 「クイズ福島歴史発見」
- ⑦ 「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧ 「話題の遺跡」
- ⑨ 「しらかわ歴史名場面」
- ⑩ 「国指定重要文化財 法正尻遺跡」
- ⑪ 映像展示

(2) 展示替え

平成29年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容とした。

展示替え一覧

コーナー	タイトル	開催期間	所有者	備考
土器年代測定結果公開	浪江町田子平遺跡出土の縄文土器	平29. 4. 1～4. 9	福島県教育委員会	平成28年度からの継続
	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土の縄文土器	平29. 4. 11～5. 21	福島県教育委員会	
	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土の縄文土器	平29. 5. 23～8. 13	福島県教育委員会	
	天栄村桑名邸遺跡出土の縄文土器	平29. 8. 14～12. 10	福島県教育委員会	
	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡出土の縄文土器	平29. 12. 12～平30. 2. 12	福島県教育委員会	
ふくしまの宝物	富岡町前山A遺跡出土の縄文土器	平30. 2. 14～3. 31	福島県教育委員会	
	下郷町南倉沢遺跡出土の獣面突起	平29. 4. 1～5. 7	福島県教育委員会	平成28年度からの継続
	相馬市大森遺跡出土の磁器	平29. 5. 9～7. 9	福島県教育委員会	
	新地町向田A遺跡出土の獣脚鋳型	平29. 7. 11～9. 10	福島県教育委員会	
	矢吹町白山C遺跡出土の円筒埴輪	平29. 9. 12～11. 23	福島県教育委員会	指定文化財展「はにわ行進曲」関連展示
みんなの研究ひろば	浪江町中平遺跡出土の陶器	平29. 11. 24～平30. 1. 21	福島県教育委員会	企画展「被災地の文化財」関連展示
	磐梯町角間遺跡出土のアスファルト	平30. 1. 23～3. 31	福島県教育委員会	
	城跡の考古学～兵どもが夢の跡～	平29. 4. 1～4. 16	福島県教育委員会	平成28年度からの継続、楯葉町小嶋城跡
	ミニ文化財復興展「富岡町・双葉町・大熊町」	平29. 4. 1～7. 30	富岡町・大熊町・双葉町	平成28年度からの継続
	複式炉の住まい方	平29. 4. 21～8. 16	福島県教育委員会	楯葉町馬場前遺跡
	ミニ文化財復興展「双葉高校の文化財調査」	平29. 8. 1～12. 15	双葉町教育委員会	双葉町郡山五番遺跡他
	中世の道が、見えてきた	平29. 8. 17～11. 30	福島県教育委員会	須賀川市蛭館跡他
ボクらの成果をみてね!	平29. 11. 28～平30. 1. 31		指定文化財展「はにわ行進曲」関連展示	
しらかわ歴史名場面	知られざる砲台場	平29. 12. 16～平30. 3. 4	個人蔵	特集展「戊辰戦争と考古学」
	まほろんボランティア平成29年度の活動記録	平30. 3. 14～3. 31		
	白河市南堀切遺跡・町屋遺跡	平29. 4. 1～5. 7	白河市教育委員会	平成28年度からの継続
	白河市一里段A遺跡	平29. 5. 9～5. 28、 平29. 6. 16～9. 17	福島県教育委員会	
	白河市借宿庵寺	平29. 5. 30～6. 15	白河市教育委員会	
	古墳時代の江平遺跡	平29. 9. 18～12. 15	福島県教育委員会	玉川村江平遺跡
	白河の攻防戦	平29. 12. 16～平30. 3. 4	白河市教育委員会	特集展「戊辰戦争と考古学」
話題の遺跡	泉川遺跡の縄文土器	平30. 3. 6～3. 31	福島県教育委員会	白河市泉川遺跡
	縄文時代中期のヒスイ	平29. 4. 1～4. 4	福島県教育委員会	平成28年度からの継続
	縄文土器のフェイス to フェイス	平29. 4. 5～6. 18	福島県教育委員会	石川町七郎内C遺跡他
	赤柴遺跡	平29. 6. 20～9. 28	福島県教育委員会	南相馬市赤柴遺跡
	ハニワじゃないのよドグウは	平29. 9. 1～11. 27	福島県教育委員会	南相馬市茨原遺跡他
	高木遺跡	平29. 10. 24～11. 3	福島県教育委員会	須賀川市高木遺跡、現地説明会紹介展示
	大谷上ノ原遺跡	平29. 11. 11～12. 13	福島県教育委員会	楯葉町大谷上ノ原遺跡、現地説明会紹介展示
特集展	塚前古墳	平30. 2. 1～3. 25	いわき市教育委員会	いわき市塚前古墳
	トロミ遺跡	平30. 3. 6～3. 31	福島県教育委員会	二本松市トロミ遺跡
	戊辰戦争と考古学	平29. 12. 16～平30. 3. 4	会津若松市教育委員会 二本松市教育委員会 棚倉町教育委員会	会津若松市若松城跡 二本松市二本松城跡 棚倉町棚倉城跡
国指定重要文化財公開	猪苗代町・磐梯町法正尻遺跡	平29. 7. 1～平30. 3. 31	福島県教育委員会	展示替え計5回
エントランス特別展示	新春「戊」特別展示	平30. 1. 5～1. 31	福島県教育委員会	郡山市荒小路遺跡他

1) 土器年代測定結果公開コーナー

平成28年度に実施した測定資料中から、縄文時代中期の資料を中心に6回の展示を行った。



「土器年代測定結果公開コーナー」

2) ふくしまの宝物

白河館に収蔵されている出土品の中から、学芸員が逸品をピックアップして紹介するコーナーで、企画展等と関連させながら6回の展示替えを行なった。

◆下郷町南倉沢遺跡出土の獣面突起（平成28年度からの継続）

縄文時代前期中葉の縄文土器口縁部に貼り付けられる獣を意匠した突起片を展示した。

◆相馬市大森遺跡出土の磁器

1940年（昭和15年）の幻となった東京オリンピックを記念して作成された茶碗を展示した。

◆新地町向田A遺跡出土の獣脚鋳型

平安時代の獣脚鋳型を展示した。

◆矢吹町白山C遺跡出土の円筒埴輪

指定文化財展「はにわ行進曲」に関連させ、当館が収蔵する円筒埴輪を展示した。

◆浪江町中平遺跡出土の陶器

企画展「被災地の文化財」に関連させ、江戸時代末の大堀相馬焼を展示した。

◆磐梯町角間遺跡出土のアスファルト

縄文時代後期の土器内に残存したアスファルト塊を展示した。

3) みんなの研究ひろば

「みんなの研究ひろば」は、歴史や文化財等に関する研究を紹介するほか、東日本大震災により被災した市町村の文化財展示コーナーとしての活用を図っている。また、ボランティアや

「森の塾」の活動記録の展示も行った。

◆城跡の考古学～兵どもが夢の跡～（平成28年度からの継続）

平成28年度に行った企画展「城跡の考古学」の関連展示で、楢葉町小埞城跡の出土遺物を展示した。

◆ミニ文化財復興展「富岡町・双葉町・大熊町」（平成28年度からの継続）

原子力災害に伴い白河館に仮保管されている富岡町・双葉町・大熊町の資料を展示した。

◆複式炉の住まい方

楢葉町馬場前遺跡の住居跡を例に、複式炉を有する竪穴住居跡の空間利用について考える展示とした。

◆ミニ文化財復興展「双葉高校の文化財調査」

双葉高校生が発掘調査に携わった郡山五番遺跡の調査写真とともに、遺跡出土の軒丸瓦を展示した。

◆中世の道が、見えてきた

須賀川市蛭館跡・郡山市荒井猫田遺跡・白河市芳野遺跡の調査成果を基に、中世の道と館・町との関係を推定した。

◆ボクらの成果をみてね！

「森の塾」塾生が今年度取り組んだ古墳時代の研究成果を、当館ボランティアによる解説文とともに展示した。



「ボクらの成果をみてね！」

◆まほろんボランティア平成29年度の活動記録

当館ボランティアの平成29年度の活動を、新規に実施した図書の修繕・竹カゴづくりを中心に紹介した。

4) しらかわ歴史名場面

「しらかわ歴史名場面」は、地元自治体と連

携した展示も行いながら、白河地域の文化財について理解を深める展示を目的としている。

本年度は、6遺跡の考古資料について5回の展示替えを行った。

◆白河市南堀切遺跡・町屋遺跡

収蔵資料展「縄文土器の年代Ⅱー縄文中期の世界に迫るー」の関連展示として行った。両遺跡出土の縄文土器やヒスイ製大珠、コハク製飾玉、黒曜石製石鏃などを展示した。

◆白河市一里段A遺跡

旧石器時代の定型石器と接合資料を展示し、旧石器時代文化の研究法とともに紹介した。

◆白河市借宿廃寺

白河郡官衙関連遺跡である借宿廃寺の出土品を展示し、古代の白河郡の様相を紹介した。

◆古墳時代の江平遺跡

古代白河郡に属した玉川村江平遺跡の古墳時代に注目した展示とした。住居群と古墳群が隣接する状況や大量の遺物が出土した住居跡などを紹介した。

◆泉川遺跡の縄文土器

縄文時代早期の遺跡である白河市泉川遺跡出土の鶺鴒ガ島台式をはじめ、前期の土器や黒曜石等を展示し、地域間のつながりを紹介した。

5) 話題の遺跡

県内の文化財情報を収集し、話題性のある資料を速報的に展示するコーナーである。企画展や他の展示コーナーに関連した遺跡を紹介することで、展示室全体が有機的に連携するように努めている。

また、現地説明会のPR展示をはじめ、研究紀要に掲載した資料、企画展に関連した資料など8回の展示を行った。

◆縄文時代中期のヒスイ、縄文土器のフェイス to フェイス

いずれも収蔵資料展「縄文土器の年代Ⅱー縄文中期の世界に迫るー」関連展示である。

「縄文時代中期のヒスイ」は、縄文時代中期の遠隔地産出石材のひとつであるヒスイの出土からうかがえる、遠隔地交流について紹介した。

磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡、天栄村桑名邸遺跡、石川町七郎内C遺跡出土ヒスイ製大珠などを展示した。

「縄文土器のフェイス to フェイス」は、

石川町七郎内C遺跡や須賀川市塚越遺跡など縄文時代中期を中心に、土器の器面にみられる人面装飾を展示した。

◆赤柴遺跡

縄文時代後期の遺跡である南相馬市赤柴遺跡の出土品を展示した。ろ過器付土器や香炉形土器などを展示した。

◆ハニワじゃないのよドグウは

指定文化財展「はにわ行進曲」に関連し、収蔵資料の中から代表的な土偶を紹介することで、土偶と埴輪を対比した展示とした。

◆高木遺跡、大谷上ノ原遺跡

いずれも現地説明会をPRする展示である。須賀川市高木遺跡は、これまでの成果をパネル展示で紹介した。

榎葉町大谷上ノ原遺跡は、パネルとともに過年度の調査で出土した資料を展示した。

◆塚前古墳

いわき市教育委員会が発掘調査し、福島大学が研究報告したことで話題となったいわき市塚前古墳を紹介する展示で、調査成果とともに形象埴輪などを展示した。

◆トロミ遺跡

今年度、当館に移管された遺跡の調査成果を紹介する展示である。二本松市トロミ遺跡を取り上げ、古代と中世の出土品を展示した。

6) 特集展「戊辰戦争と考古学」

平成30年が戊辰戦争終結150年にあたることから企画した展示である。県内における戊辰戦争の展開を出土資料と遺構から紹介した。このなかで各地に残された遺構、特に「知られざる砲台場」に注目し、その保護の必要性を訴えた。

また、近年の研究で明らかになってきた知られざる砲台場については「みんなの研究ひろば」コーナー、白河での攻防戦を「しらかわ歴史名場面」コーナーで展示し、各コーナーとの関連付けを行った。

(3) 展示資料のメンテナンス等

◆野外展示

常設・野外展示資料の状態について、定期的に点検を実施し、軽微な修繕については、展示担当の学芸員が行った。

また、専門業者に依頼した修繕箇所及び方法

は以下のとおりである。

◆奈良時代の倉庫

倉庫屋根の軒瓦の劣化と、棟部モルタルの剥落を受け、瓦の一部葺き替えを行い、棟部剥落部に新たにモルタルを塗布した。

◆平安時代の製鉄炉

屋根木材の腐食が進み漏水した。そこで、防水シートを敷設し屋根下地の防水処理を行った後、屋根材で被覆した。

2. 企画展示

(1) 収蔵資料展

「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」後期展

会期：平成29年4月5日（水）～5月7日（日）
（開催日数30日間）

観覧者数：4,630名

1) 趣旨

平成26年度から、白河館の収蔵資料についてAMS法を用いた放射性炭素年代測定及び炭素・窒素安定同位体比分析を行っている。今回の展示では、平成28年度に実施した、主に縄文時代中期に属する資料の分析結果を公表した。

特に、白河館に収蔵されている国指定重要文化財である磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡出土土器を中心として、天栄村桑名邸遺跡、楢葉町馬場前遺跡出土などの土器と暦年代値を併せて紹介することで、見学者の理解を深める展示とした。また、土器の文様や形から見える地域性や各地との交流の様相を紹介した。

さらに、炭素・窒素安定同位体比分析のデータを基にして読み取れる当時の環境と食生活の

一端を推測した。また、県外の炭素・窒素安定同位体比分析データと比較することで、福島県域に生きた縄文人の姿を想像できるように展示を行った。

2) 展示の構成と内容

①進化するものさし

発掘調査や土器から得られる情報について、具体的な事例を紹介しつつ型式学的編年、層位学的編年や暦年代値があることを説明した。

②土器の年代と地域性

平成28年度にAMS年代測定を行った資料と分析結果を初公開した。併せて、縄文時代中期の特性について、出土した縄文土器の文様や形から得られる、土器の地域色や広域にわたる交流圏などについて紹介した。

③縄文人の食生活と環境

内面に炭化物が付着した土器を展示しつつ、平成28年度に行った炭素・窒素安定同位体比（C/N比）分析の結果を初公開した。また、地域や環境により適応してきた食料事情について、県外のデータを紹介することで、福島県域の縄文時代の食性の特徴を解説した。

3) 成果と反省

前年度の反省として指摘された専門用語や分析値の解説については、展示パネル等に説明文を多く掲載することで観覧者が理解しやすいように工夫した。また、できるだけ多くの資料を紹介することで、縄文時代中期の理解の手助けになるように、前期展と後期展に分けて、展示資料を大きく入れ替え展示を行った。平成29年度中の展示は、後期展として開催した。

(2) ふくしま復興展1

「編む・組む・削る－植物利用の技術史－」

会期：平成29年6月24日（土）～8月27日（日）
（開催日数61日間）

観覧者数：6,817名

1) 趣旨

ふくしまの森林資源を利用した加工技術に焦点をあて、ふくしまの自然と民俗技術の関わりについて紹介した展示である。また、様々な理由で途絶え始めている民俗技術の現状と保護の必要性を発信することも目的とした。



「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」

「編む・組む・削る－植物利用の技術史－」展示資料一覧

番号	資料名	遺跡名・時代	点数	所有者	番号	資料名	遺跡名・時代	点数	所有者
1	編み組製品（模造品）	三角山I遺跡（縄文）	1	—	64	縄文土器	柏久保遺跡（縄文前期）	1	福島県教育委員会
2	敷物（模造品）	新田B遺跡（縄文）	1	—	65	縄文土器	法正尻遺跡（縄文中期）	5	福島県教育委員会
3	カゴ（模造品）	荒屋敷遺跡（縄文）	1	個人蔵	66	縄文土器	八方塚遺跡（縄文中期）	1	福島県教育委員会
4	カゴの痕跡が残る壺	大池下遺跡（古墳）	1	福島県教育委員会	67	縄文土器	弓手原A遺跡（縄文中期）	1	福島県教育委員会
5	箕（模造品）	稲村御所館跡（中世）	1	個人蔵	68	縄文土器	塩喰岩陰遺跡（縄文中期）	1	福島県教育委員会
6	中世以前のカゴ	江平遺跡（中世以前）	1	福島県教育委員会	69	縄文土器	上ノ台A遺跡（縄文中期）	1	福島県教育委員会
7	中世以前のカゴ（模造品）	現代	1	個人蔵	70	縄文土器	羽白D遺跡（縄文中期）	1	福島県教育委員会
8	クワカゴ	現代	1	只見町ブナセンター	71	縄文土器	八景腰巻遺跡（縄文中期）	2	福島県教育委員会
9	カジカドウ	現代	1	只見町ブナセンター	72	縄文土器	赤柴遺跡（縄文後期）	1	福島県教育委員会
10	カゴ	現代	1	只見町ブナセンター	73	縄文土器	弓手原A遺跡（縄文後期）	4	福島県教育委員会
11	ショイカゴ	現代	2	只見町ブナセンター	74	縄文土器	荒小路遺跡（縄文後期）	3	福島県教育委員会
12	皮箕	現代	1	只見町ブナセンター	75	縄文土器	赤沢A遺跡（縄文後期）	1	福島県教育委員会
13	バンドリ	現代	1	只見町ブナセンター	76	縄文土器	角間遺跡（縄文後期）	4	福島県教育委員会
14	コシカゴ	現代	1	只見町ブナセンター	77	縄文土器	獅子内遺跡（縄文後期）	1	福島県教育委員会
15	ザル	現代	2	只見町ブナセンター	78	縄文土器	萱立遺跡（縄文後期）	1	福島県教育委員会
16	サデミ	現代	1	只見町ブナセンター	79	縄文土器	日向南遺跡（縄文後期）	1	福島県教育委員会
17	シナカゴ	現代	1	只見町ブナセンター	80	縄文土器	原田遺跡（縄文後期）	1	福島県教育委員会
18	アケビザル	現代	1	只見町ブナセンター	81	縄文土器	羽白D遺跡（縄文後期）	1	福島県教育委員会
19	箕	現代	1	いわき市暮らしの伝承郷	82	縄文土器	宮内B遺跡（縄文後期）	9	福島県教育委員会
20	バンドリ	現代	1	個人蔵	83	縄文土器	岩下A遺跡（縄文晩期～弥生）	1	福島県教育委員会
21	笠	現代	1	—	84	縄文土器	岩下B遺跡（縄文晩期～弥生）	1	福島県教育委員会
22	すいのう	現代	1	—	85	縄文土器	獅子内遺跡（縄文晩期～弥生）	1	福島県教育委員会
23	鍋敷き	現代	1	個人蔵	86	縄文土器	獅子内遺跡（縄文晩期～弥生）	1	福島県教育委員会
24	ぞうり	現代	1	個人蔵	87	縄文土器	登戸遺跡（縄文晩期）	1	福島県教育委員会
25	ショイカゴ	現代	1	個人蔵	88	縄文土器	下谷ヶ地平B・C遺跡（縄文晩期）	1	福島県教育委員会
26	樹皮の剥ぎ方	現代	4	—	89	縄文土器	獅子内遺跡（縄文晩期）	1	福島県教育委員会
27	ヤマブドウの皮	現代	1	個人蔵	90	弥生土器	柴迫A遺跡（弥生）	2	福島県教育委員会
28	サワグルミの皮	現代	1	個人蔵	91	弥生土器	能登遺跡（弥生）	1	福島県教育委員会
29	アケビツル	現代	1	個人蔵	92	小高の箕	現代	1	個人蔵
30	ヒロロ素材束	現代	1	三島町生活工芸館	93	のこぎり	現代	1	個人蔵
31	アカソ素材束	現代	1	三島町生活工芸館	94	木太刀棒	現代	1	個人蔵
32	モワダ素材束	現代	1	三島町生活工芸館	95	弓竹	現代	1	個人蔵
33	ヨッツォ	現代	1	只見町ブナセンター	96	タケ割りナタ	現代	1	個人蔵
34	網針	現代	1	個人蔵	97	小刀	現代	1	個人蔵
35	せん	現代	1	個人蔵	98	ツバグシ	現代	1	個人蔵
36	ヒゴ幅取り（ササ用）	現代	1	個人蔵	99	シントシ	現代	1	個人蔵
37	ヒゴ幅取り（タケ用）	現代	1	個人蔵	100	フジの皮	現代	1	個人蔵
38	シノダケのヒゴ	現代	1	個人蔵	101	フジの皮（薄く剥いたもの）	現代	1	個人蔵
39	ヒゴづくり（ササ用）	現代	1	—	102	ヤマザクラの皮	現代	1	個人蔵
40	ヤダケ割り	現代	1	—	103	ヨツズミ（ガマズミ）	現代	1	個人蔵
41	ヤダケ	現代	1	—	104	シノダケのヒゴ（アズマネザサ）	現代	1	個人蔵
42	かご	現代	1	個人蔵	105	弓竹にヒゴを通したのもの	現代	1	個人蔵
43	マタタビのヒゴづくり	現代	1	個人蔵	106	とん竹（平面に編んだもの）	現代	1	個人蔵
44	マタタビサキ	現代	1	個人蔵	107	腕木の整形	現代	1	個人蔵
45	マタタビサキ	現代	1	三島町生活工芸館	108	完成品（一斗箕）	現代	1	個人蔵
46	ヒハハバトリ	現代	1	三島町生活工芸館	109	完成品（五升箕）	現代	1	個人蔵
47	ヒゴバサミ	現代	1	三島町生活工芸館	110	鍛未成品	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
48	マタタビ素材束	現代	1	三島町生活工芸館	111	田下駄?	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
49	マタタビ	現代	1	三島町生活工芸館	112	桶側板	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
50	かご	現代	1	只見町ブナセンター	113	曲物の底板	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
51	ザル	現代	1	只見町ブナセンター	114	曲物の底板	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
52	ヒロロ	現代	1	—	115	箸	大猿田遺跡（奈良・平安）	3	福島県教育委員会
53	ヤマブドウの外皮	現代	1	個人蔵	116	10号木筒	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
54	ヤマブドウの縄	現代	1	個人蔵	117	木筒素材	大猿田遺跡（奈良・平安）	3	福島県教育委員会
55	カラムシの小袋	現代	1	—	118	弓	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
56	ヤマブドウのヒゴ	現代	1	個人蔵	119	膝柄未成品	大猿田遺跡（奈良・平安）	2	福島県教育委員会
57	シノダケのヒゴ	現代	1	個人蔵	120	挽物加工後の素材	大猿田遺跡（奈良・平安）	2	福島県教育委員会
58	砥石入れ	現代	1	個人蔵	121	編み鉢	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
59	カゴの底	現代	1	個人蔵	122	髪飾り	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
60	縄文土器	萩平遺跡（縄文前期）	7	福島県教育委員会	123	彩釉陶器	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
61	縄文土器	仲ノ縄B遺跡（縄文前期）	2	福島県教育委員会	124	銅製丸鞆	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
62	縄文土器	冑宮西遺跡（縄文前期）	2	福島県教育委員会	125	金属器模倣土師器	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会
63	縄文土器	羽白D遺跡（縄文前期）	1	福島県教育委員会	126	須恵器高台付杯	大猿田遺跡（奈良・平安）	1	福島県教育委員会

2) 展示の構成と内容

①編み組製品のルーツ

縄文時代以降、確実に作られつづけてきた編み組製品について、現在に至るまで、基本的な編み方に違いが無いことを出土遺物や只見町ブナセンター収蔵資料、写真等で紹介した。

②編み組の技術

編み組製品の材料や工具、製作工程や材料ごとに異なる製作技法について、白河館での製作実験で得られた素材や三島町生活工芸館の収蔵資料等を使って解説した。

③土器に残った痕跡

白河館収蔵の縄文土器や弥生土器の底面に残る編み組製品の痕跡から、当時使われていた編み組製品と編み組技術、時代ごとの傾向を考察した。

④存続が危ぶまれる技術

失われつつある民俗技術のうち、映像記録が残る箕づくりに焦点を当て、白河館で実施した技術再現実験の成果を紹介した。

⑤木製品生産の場

いわき市大猿田遺跡の発掘調査で明らかになった奈良時代の木製品加工場の姿と、植生の変化から見えてきた、当時の人々の自然への働きかけを紹介した。

3) 関連事業

①上映会・無形の文化財研修「伝統技術を伝えるために」

実施日：平成29年7月1日（土）

②ギャラリートーク「遺跡から出土する編み組製品の見方」

実施日：平成29年7月8日（土）

③ギャラリートーク「箕づくり技術」

実施日：平成29年8月19日（土）

④実技講座「カラムシから布をつくろう」

実施日：平成29年7月9日（日）・23日（日）・8月27日（日）

⑤文化財講演会「植物利用の考古学」

実施日：平成29年7月16日（日）

4) 成果と反省

東日本大震災に伴う原子力災害による住民避難の結果、継承が困難となった民俗技術について、その再現実験研究成果を公開するとともに、民俗技術のルーツを縄文時代以降の資料から読



「編む・組む・削る－植物利用の技術史－」

み解けるよう企図した展示であった。併せて、福島県から出土している木質遺物の樹種の傾向と変遷を初めて公表した。

考古資料と民俗技術をつなぐ視点を提示し、福島県の無形文化財が直面する課題への問題提起を行うことができたと考えている。

(3) 指定文化財展

「はにわ行進曲」

会期：平成29年9月30日（土）～11月26日（日）
（開催日数50日間）

観覧者数：4,391名

1) 趣旨

泉崎村原山1号墳と本宮市天王壇古墳の福島県指定重要文化財（考古資料）をはじめとする県内の埴輪を紹介した。今回の企画展は、幅広い年齢層が埴輪に親しみ、見て、楽しんでもらえるものにしたという思いを第一とした展示とした。

2) 展示の構成

①「ドグウじゃないのよハニワは」

②「ハニワもあるのよ、ふくしま」

③「ハニワもいろいろ」

④「思い出すわね、あの音色」

⑤「忘れていないよ みんなの顔」

①のコーナーでは、よく混同されやすい考古資料として、福島県内出土の縄文時代の土偶と、古墳時代の埴輪を比較展示し紹介した。

②のコーナーでは、過去10年の間に福島県内で出土した埴輪資料を紹介した。

③～⑤では、埴輪の種類を明示したほか、泉

崎村原山1号墳出土の琴を弾く人物埴輪の出土例から、古墳時代にもあった楽器、服装、アクセサリー、髪形、化粧などに注目した展示とした。さらに、⑤では各地の埴輪系ゆるキャラのイラストを集め、埴輪について学習した子どもたち（「まほろん森の塾」塾生）の様子を併せて紹介した。

3) 関連行事

10月1日(日)に、平成29年度に募集し集まった「まほろん森の塾」塾生5名(小学5・6年、中学1年生)による「はにわ解説会」を開催した。

10月8日(日)午前中には、北海道石狩市いしかり砂丘の風資料館の荒山千恵氏による文化財講演会「音の考古学」を、同日午後からは大信鼓魂(たいしんこだま)太鼓による、和太鼓ミニライブを開催した。

10月28日(土)には、明治大学文学部准教授若狭徹氏による考古学専門研修「はにわの世界—その意味を読み解く—」を開催した。

ギャラリートークについては、「講演会・研修会」後(10月8日・15日・28日)、さらにまほろんイベント「ありがとう50万人!まほろん大感謝祭」会期中(11月18日・19日)に、10～15分程度の内容で適宜実施した。

さらに、企画展終了後の関連展示として、平成30年2月1日(木)～3月25日(日)に常設展示室「話題の遺跡」コーナーで「いわき市塚前古墳」を開催し、形象埴輪などを展示した。

4) 成果と反省

幅広い年齢層が埴輪に親しみ、見て、楽しんでもらえることを目標にした今回の企画展の会期中に実施したアンケートによると、回答者の

「はにわ行進曲」展示資料一覧

番号	資料名	遺跡名	点数	所蔵(保管先機関名)	備考
1	土偶(縄文時代早期末～前期初頭)	上田郷VI遺跡	1	福島県教育委員会	
2	土偶(縄文時代後期)	荒小路遺跡	1	福島県教育委員会	
3	土偶(縄文時代後期)	柴原A遺跡	1	福島県教育委員会	
4	人物埴輪(丸い帽子をかぶった男性)	丸塚古墳	1	相馬市教育委員会	市指定重要文化財
5	円筒埴輪片	神谷作101号墳	1	いわき市教育委員会	
6	円筒埴輪片	庚申壇古墳	1	福島大学	
7	円筒埴輪片	金山古墳	5	大玉村教育委員会	
8	円筒埴輪片	団子山古墳	4	須賀川市教育委員会	
9	円筒埴輪片	下総塚古墳	4	白河市教育委員会	
10	円筒埴輪	谷地1号墳	1	大玉村教育委員会	
11	朝顔形埴輪	天王壇古墳	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
12	円筒埴輪	天王壇古墳	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
13	円筒埴輪(円筒埴輪棺)	大塚遺跡	1	白河市教育委員会	
14	円筒埴輪	経塚1号墳	1	会津坂下町教育委員会	
15	円筒埴輪	原山1号墳	1	福島県立博物館	県指定重要文化財
16	円筒埴輪片	神谷作106号墳	1	いわき市教育委員会	
17	人物埴輪頭部片(男性)	牛転1号墳	1	いわき市教育委員会	
18	人物埴輪片(冠をかぶった男性)	塚畑古墳	3	須賀川市教育委員会	
19	人物埴輪(力士)	原山1号墳	1	福島県立博物館	複製。原資料：県指定重要文化財
20	形象埴輪(トリ)	天王壇古墳	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
21	形象埴輪(イノシシの破片)	天王壇古墳	2	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
22	形象埴輪(ウマ)	天王壇古墳	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
23	形象埴輪(ウマ(乗馬する人物付き))	経塚1号墳	1	会津坂下町教育委員会	
24	形象埴輪(笠)	天王壇古墳	1	本宮市立歴史民俗資料館	県指定重要文化財
25	形象埴輪(家(屋根部破片))	鬼穴1号墳	1	矢吹町教育委員会	
26	人物埴輪(鈴付き冠をかぶった男性)	神谷作101号墳	1	いわき市教育委員会	複製。原資料：国指定重要文化財
27	人物埴輪(鈴鏡を腰につけた女性)	神谷作101号墳	1	いわき市教育委員会	複製。原資料：国指定重要文化財
28	人物埴輪(冠をかぶった男性)	原山1号墳	1	福島県立博物館	県指定重要文化財
29	人物埴輪(琴を弾く男性)	原山1号墳	1	福島県立博物館	県指定重要文化財
30	人物埴輪(女性)	原山1号墳	1	福島県立博物館	県指定重要文化財
31	人物埴輪(器をもった女性)	丸塚古墳	1	相馬市教育委員会	市指定重要文化財
32	五鈴鏡	(伝)愛宕山古墳	1	本宮市立歴史民俗資料館	
33	復元品：あずさ弓	—	1	福島県教育委員会	
34	復元品：琴	—	1	福島県教育委員会	
35	復元品：四ツ竹	—	1	福島県教育委員会	
36	復元品：馬具	中田横穴墓	一式	福島県教育委員会	
37	復元品：刀	笹内古墳群	1	福島県教育委員会	
38	直刀	上宮崎B15号墳	1	福島県教育委員会	
39	直刀	弘法山横穴墓群	3	福島県教育委員会	
40	直刀	江平8号墳	1	福島県教育委員会	
41	勾玉・ガラス玉・琥珀玉	弘法山横穴墓群	一式	福島県教育委員会	
42	銅製釧	笹内古墳群	1	福島県教育委員会	
43	復元品：釧	笹内古墳群	1	福島県教育委員会	
44	耳飾り	駒板新田横穴墓群	2	福島県教育委員会	
45	復元品：耳飾り	笹内古墳群	2	福島県教育委員会	
46	復元品：髪形・被り物	—	3	福島県教育委員会	
47	復元品：埴輪風衣装・被り物	—	一式	福島県教育委員会	

90%以上が、企画展の内容・見やすさ、説明の内容・見やすさに対して「満足」または「やや満足」と回答しており、解説を比較的少なくするといった要件や、見て・触れて・聞いて、楽しめるということに配慮したのが、功を奏した結果ではないかと推察している。

一方、展示品の少なさ、解説文字の小ささや文の少なさ、解説資料の不十分さなども指摘されている。これからも、幅広い年齢層が、文化財や地域の歴史を楽しみながら、理解するための方策を検討していきたい。

(4) ふくしま復興展2

「被災地の文化財 双葉高校史学部の歩み」

会期：平成29年12月16日(土)～平成30年3月18日(日) (開催日数94日間)

観覧者数 5,455名

1) 趣旨

原子力災害にともなう帰還困難区域に立地するため、平成29年3月31日をもって休校となった双葉高校史学部卒業生たちの活動を顕彰し、長期的避難による郷土との分断を乗り越え、ふるさとの歴史と文化を未来につなぐあり方について考える機会とするため、展示を企画した。

2) 展示の構成と内容

①双葉高校と史学部の紹介

福島県立双葉高等学校について、『創立六十年周年』などの記念誌や生徒会誌『ふたばNo.24』、双葉中学校裏校舎上棟記念写真や校歌パネルの展示を行って紹介した。さらに、昭和20年代から浜通り地方の文化財調査、城下町調査、民話調査、空襲被害聞き取り調査などを精力的に進め、地域史研究に大きな足跡を残した史学部について紹介した。

②双葉高校史学部に保管されていた活動記録や考古資料の展示

調査日誌・遺跡見学記録や発掘調査記録図面、発掘調査報告書原稿、『双葉史学』や『歴訪』などの部誌、史学部の活動を記録した写真アルバム、遺跡測量器材などを展示することにより、ハイレベルな当時の活動について紹介した。

考古資料については、出土地名や採集年月日などが墨書されている考古資料を選んで展示した。資料の墨書には、いわき市から相馬郡新地

町にかけての地名が記されており、当時の史学部員の広範な活動範囲をうかがうことができた。

③双葉高校史学部が参加した遺跡発掘調査資料の展示

史学部員が発掘調査に参加した、富岡町小浜代遺跡・真壁城跡、大熊町道平遺跡・大平遺跡、双葉町沼の沢古墳群・清戸迫横穴墓群・郡山五番遺跡から出土した遺物、ならびに発掘調査風景写真を展示した。

④民話聞き取り調査・空襲被害調査の展示

民話の聞き取り調査については、聞き取りマニュアルやテープ起こしの感想文、空襲被害調査については、調査票や報告が掲載された部誌、調査活動を報じた地元新聞紙の切り抜きなどを展示し、史学部では地元の民俗や近代史についても調査を行っていたことを紹介した。

⑤化石・岩石・鉱物・植物標本の展示

双葉高校内に保管されていた、化石・岩石・鉱物・植物の標本を展示した。

⑥思い出の写真の展示

史学部に保管されていた写真のなかから、研修旅行や発掘調査での合宿、発掘現場での休憩時間、部室での活動など、部員たちの顔が多く写っている写真を選んで展示した。

2) 関連事業

ギャラリートークは、1月28日(日)・2月18日(日)・3月4日(日)に実施した。また、この他の関連行事として、1月28日(日)に文化財講演会「双葉高校史学部の軌跡」(講師：



「被災地の文化財 双葉高校史学部の歩み」

「被災地の文化財 双葉高校史学部の歩み」
展示資料一覧

番号	資 料 名	点数
1	土師器甕	6
2	土師器椀	1
3	土師器杯	4
4	土師器筒形土器・ハソウ・蓋	3
5	土師器器台	2
6	土鈴	1
7	陶器	1
8	須恵器ハソウ・長頸瓶	2
9	須恵器片	12
10	磨製石斧	4
11	打製石斧	7
12	土偶	6
13	土製円盤	6
14	土錘	4
15	土玉	2
16	剥片石器(石鏃・尖頭器・石錐・石匙)	44
17	縄文土器片	30
18	双葉町郡山五番遺跡 古瓦	14
19	寺沢仲禅寺遺跡 古瓦	8
20	貝塚出土資料(骨格器・鹿骨・鹿角・貝殻・魚骨など)	46
21	双葉町清戸廻横穴墓 須恵器壺・ハソウ・長頸瓶	3
22	双葉町清戸廻横穴墓 勾玉	8
23	双葉町沼の沢古墳群 勾玉・管玉・小玉・切子玉	52
24	双葉町郡山五番遺跡 軒丸瓦	3
25	双葉町郡山五番遺跡 軒平瓦	2
26	大熊町道平遺跡 縄文晩期 深鉢形土器・鉢形土器	4
27	大熊町道平遺跡 土偶	13
28	大熊町道平遺跡 土製品	18
29	大熊町大平遺跡 縄文早期土器	20
30	大熊町大平遺跡 石鏃	2
31	富岡町小浜代遺跡 古瓦	6
32	富岡町真壁城跡 土師器 杯・高坏・椀・壺・鉢・甕・かわらけ	16
33	写真アルバム 順礼堂遺跡発掘	1
34	写真アルバム 沼の沢古墳群発掘	1
35	双高七十年 福島県立双葉高等学校	1
36	創立六十周年 福島県立双葉高等学校	1
37	ふたば No.24 福島県立双葉高等学校生徒会	1
38	双葉史学 社研1号～4号・双葉史学5号～13号合本	1
39	双葉史学 第14・15・16号	3
40	双葉史学 特別号	1
41	れきぼう 第11号	1
42	歴訪 第15・16号	2
43	光陰Vol.3 原町高等学校郷土史研究クラブ	1
44	クラブの歩み 福島県立浪江高等学校社会クラブ	1
45	Social Research.69 福島県立福島高等学校社会研究クラブ部誌	1
46	ふるさと5 福島県立石川高等学校郷土クラブ	1
47	考古 第22号 福島県立磐城高等学校史学部	1
48	古瓦 第5号 福島県立湯本高等学校社会部史学班誌	1
49	文化祭配布パンフレット(複製画像)	1
50	新聞スクラップブック 昭和50年代	1
51	丈六古墳群第一号墳実測図トレース図	1
52	丈六古墳群第二号墳実測図トレース図	1
53	沼の沢古墳群測量・発掘調査記録図面	3
54	寺内廻5号横穴墓実測図	2
55	浪江町丈六古墳群第一号・第二号発掘調査報告書原稿	1
56	浪江町高瀬遺跡竪穴住居跡実測図	3
57	部誌原稿	5
58	丈六古墳近辺略図	1
59	沼の沢5号墳発掘日誌原稿	1
60	寺内前横穴古墳発掘報告書原稿(昭和36年9月)	1
61	石棺実測図	2
62	文化財包蔵地カード・封筒入り一式	4
63	昔話採集関係資料	5
64	空襲被害調査新聞切抜額縁入り(複製画像)	1
65	空襲の被害調査票	5
66	化石 木箱入一括	3
67	化石 紙箱入一括	11
68	岩石鉱物 木箱入一括	2
69	植物標本	6
70	発掘調査に使用したレベル	1
71	発掘調査に使用した平板測量のアリダード・方位磁石	3
72	第62回全国高校野球選手権出場 列車サインボード	1
73	双葉中学校裏倉舎上棟記念写真(複製写真)	1

双葉高校史学部OBで双葉町教育委員会の吉野高光氏)、3月4日(日)に文化財講演会「被災地と文化財—ふるさとの記憶をつなぐ—」(講師:双葉高校OBで東北大学大学院文学研究科の泉田邦彦氏)などを開催した。

3) 成果と反省

展示開催期間中には、多くの双葉高校卒業生が来館し、アンケートや自由帳に書き込みを行った。その内容から、休校となった母校や史学部、郷土の歴史に対する思いが強く伝わってきた。さらに、「思い出の写真」コーナーに付箋紙と鉛筆を備えたところ、写っている人の名前、写真の撮影者、撮影場所、撮影年、エピソードなどが書き込まれ、展示情報が日々更新されて行った。

反響が大きかったため、当初予定していた会期を延長したが、会期前の広報宣伝を工夫し、全国各地に避難している双葉高校の卒業生に展示開催を周知すべきであった。

3. 講演会等

(1) 館長講演会

平成29年度は、「進展する考古学」をテーマに、5回の館長講演会を開催した。

- ・平成29年5月20日(土)第1回「考古学から見た日本人の特質」
- ・平成29年7月15日(土)第2回「ネアンデルタール人と花」
- ・平成29年9月30日(土)第3回「謎の古代文字、その後—フゴッペ洞穴の岩面刻画と考古学—」
- ・平成29年12月16日(土)第4回「戦争遺跡—戦跡考古学の今—」
- ・平成30年2月3日(土)第5回「日本考古学の歩みと戦後の発掘調査」

(2) 文化財講演会等

企画展など関連付けて、文化財講演会を7回、文化財に関する上映会を1回、文化財講座を1回開催した。

①「縄文時代中期の世界について」は、企画展「縄文土器の年代Ⅱ—縄文中期の世界に迫る—」の関連講演会で、公益財団法人とちぎ未来づくり財団栃木県埋蔵文化財センターの塚本師也氏が講演を行った。

塚本氏は、縄文時代の食料獲得やその保存方法、住居の構造、土器の利用方法など、縄文時代の暮らしについて概述し、その後、土器の見方として、縄文土器の文様の特徴、地域差と年代差を示す土器の「型式」についてなど専門的な内容を詳述した。北関東から福島県南部に分布する石川町の七郎内Ⅱ群土器と槻沢型（栃木県那須町）の土器を比較し、文様の特徴や分布範囲の違いなどを参考にして、土器型式から見た地域間交流を把握する方法などを説明した。

- ・実施日：平成29年4月23日（日）
- ・参加者：46名



文化財講演会「縄文時代中期の世界について」

②「ふくしま発掘クロニクル」は、当財団遺跡調査部設立40年を記念して開催した講演会である。白河館職員による「遺跡からさぐる阿武隈の古植生」、当財団遺跡調査部調査課長による「ふくしまの古代製鉄遺跡群と震災復興調査」の2つの講演を実施した。東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査の状況を、調査面積の推移、他県からの財団間派遣職員の協力体制などを交えながら詳述した。復興調査の成果としては、阿武隈高地における中・近世の製鉄遺跡が数多く調査され、新たな知見が得られたことを解説した。

- ・実施日：平成29年6月24日（土）
- ・参加者：25名

③「植物利用の考古学」は、ふくしま復興展1「編む・組む・削る—植物利用の技術史—」の関連講演会である。講師の佐々木由香氏は、「縄文時代の植物資源利用」と題し、最近研究

が進んでいる縄文時代の植物資源利用の特徴を解説し、土器に残された圧痕から利用された植物を同定するレプリカ法の実技指導を行った。また、当館職員による「奈良時代の木器生産遺跡」では、いわき市大猿田遺跡の発掘調査で判明した奈良時代の木器づくりに関する所見を中心にした発表が行われた。

- ・実施日：平成29年7月16日（日）
- ・参加者：27名



文化財講演会「植物利用の考古学」

④「音の考古学」は、指定文化財展「はにわ行進曲」の関連講演会である。講師のいしかり砂丘の風資料館の荒山千恵氏は、古墳時代の馬具や鈴鏡等の復元研究が進み、鈴は、つなぎ方、持ち方、振り方によって音色が変化することを、実験を交えて解説した。特に展示資料の泉崎村原山1号墳出土の「琴を弾く男」を題材にして、荒山氏が精力的に進めている弥生時代～古墳時代の琴の構造について詳しく説明した上で、荒山氏自身が復元した弥生時代～古墳時代の琴や



文化財講演会「音の考古学」

現代の生田流の琴を演奏し、参加者に感銘を与えた。

・実施日：平成29年10月8日（日）

・参加者：30名

⑤「戊辰戦争期の陣地遺構」は、平成30年が戊辰戦争後150年を迎えるのに先行して開催した特集展「戊辰戦争と考古学」の関連講演会である。当館職員が戊辰戦争期の陣地跡の類型を概説し、郡山地方史研究会の広長秀典氏が天栄村と郡山市湖南町の境に位置する馬入峠堡塁跡の歴史的背景を解説した。

・実施日：平成29年12月17日（日）

・参加者：75名



文化財講演会「戊辰戦争期の陣地遺構」

⑥「双葉高校史学部の軌跡」は、企画展「双葉高校史学部の歩み」の関連講演会である。参加者の約6～7割は、双葉高校卒業生等の関係者と思われる。民放のテレビ局2社のカメラが入り、関心の高さがうかがわれた。講師の双葉町教育委員会の吉野高光氏は、双葉高校史学部の卒業生で、双葉高校史学部設立の経緯、機関誌の発行状況、遺跡発掘調査歴、他校との交流の様子等を詳述した。講演内容からは、浜通り地方の各高校の活発な活動が戦後の考古学に大きな成果を残したこと、当時の活気あふれる若者同士の連帯感、旺盛な探求心、学問に対する真摯な姿勢に触れることができ、懐かしさと共に、双葉町の復興に期待を抱かせた。

・実施日：平成30年1月28日（日）

・参加者：36名

⑦「被災地と文化財—ふるさとの記憶をつなぐ—」は、企画展「被災地の文化財 双葉高校史学部の歩み」の会期延長に伴う関連講演会である。講師の東北大学大学院文学研究科の泉田邦彦氏は、茨城大学在学中に東日本大震災に被災し、茨城史料ネットを通じて史料保全の手法を習得した経緯を解説した。大学院進学後は、実家の泉田家の史料レスキュー、双葉町の文化財保全・記録活動を継続し、その成果を公開し

講演会等実施状況

名 称	講 師	実施日	受講者数
第1回 進展する考古学「考古学から見た日本人の特質」	館長 菊池徹夫	平29.5.20	30名
第2回 進展する考古学「ネアンデルタール人と花」	館長 菊池徹夫	平29.7.15	36名
第3回 進展する考古学「謎の古代文字、その後—フゴッベ洞穴の岩面刻画と考古学—」	館長 菊池徹夫	平29.9.30	30名
第4回 進展する考古学「戦争遺跡—戦跡考古学の今—」	館長 菊池徹夫	平29.12.16	30名
第5回 進展する考古学「日本考古学の歩みと戦後の発掘調査」	館長 菊池徹夫	平30.2.3	26名
I 文化財講演会「縄文時代中期の世界について」	塚本師也（公益財団法人とちぎ未来づくり財団 栃木県埋蔵文化財センター 副主幹兼整理課長）	平29.4.23	46名
II 文化財講演会「ふくしま発掘クロニクル」	吉田秀享（公益財団法人福島県文化振興財団） 山内幹夫（当館学芸課嘱託）	平29.6.24	25名
III 文化財講演会「植物利用の考古学」	佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ 総括部長） 本間 宏（当館学芸課長）	平29.7.16	27名
IV 文化財講演会「音の考古学」	荒山千恵（いしかり砂丘の風資料館 学芸員）	平29.10.8	30名
V 文化財講演会「戊辰戦争期の陣地遺構」	広長秀典（郡山地方史研究会 会員） 小暮伸之（当館専門学芸員）	平29.12.17	75名
VI 文化財講演会「双葉高校史学部の軌跡」	吉野高光（双葉町教育委員会 教育総務課 生涯学習係 総括主任主査兼生涯学習係長）	平30.1.28	36名
VII 文化財講演会「被災地と文化財—ふるさとの記憶をつなぐ—」	泉田邦彦（東北大学大学院文学研究科 博士後期課程）	平30.3.4	31名
文化財講座「縄文土器の年代と地域性」	三浦武司（当館専門学芸員）	平29.8.26	19名
文化財に関する上映会「木積の箕をつくる—千葉県匝瑳市木積—」	國井秀紀（当館専門学芸員）	平29.7.1	4名
合計			445名

ている。故郷との分断という危機を乗り越え、地域の記憶を未来につなぐ取り組みと、その意義が語られた。

- ・実施日：平成30年3月4日（日）
- ・参加者：31名

（3）文化財講座

「縄文土器の年代と地域性」をテーマとして、縄文土器編年研究において用いられる型式学的検討と層位学的検討に基づく編年研究の成果に、年代測定で得られた新知見を加えながら、縄文土器の年代と地域性を解説した。講師は当館職員が担当した。

- ・実施日：平成29年8月26日（土）
- ・参加者：19名

（4）文化財に関する上映会

本年度は、無形の文化財研修「伝統技術を伝えるために」に関連して、上映会「木積の箕をつくる－千葉県匝瑳市木積－」を開催した。当館職員が、詳細に記録された映像記録から箕づくりを完成させた実体験に基づいて、「材料の採取・加工」から「仕立て・仕上げ」までの工程を、順を追って解説した。

- ・実施日：平成29年7月1日（土）
- ・参加者：4名

4. 体験学習・イベント

（1）常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

個人来館者を対象とした体験メニューで、体験活動室を中心に実施している。平成29年度は、35種類の体験活動室メニューを実施した。この内、通年で体験が可能なメニューとして、「勾玉づくり」「管玉づくり」「火おこしに挑戦しよう」の定番メニューを例年通り実施したほか、新たに展示を巡って問題を解いていく「まほろんクイズラリー」を実施した。

通年実施のメニュー以外では、季節の行事や企画展に関連させたテーマを月毎に定め、そのテーマに即した期間限定の体験メニューを31種類実施した。この内、「かぶれる鯉のぼりづくり」「アクセサリーづくり」「腰文づくり」「たがプレスレットづくり」「蒔絵風缶バッジづく

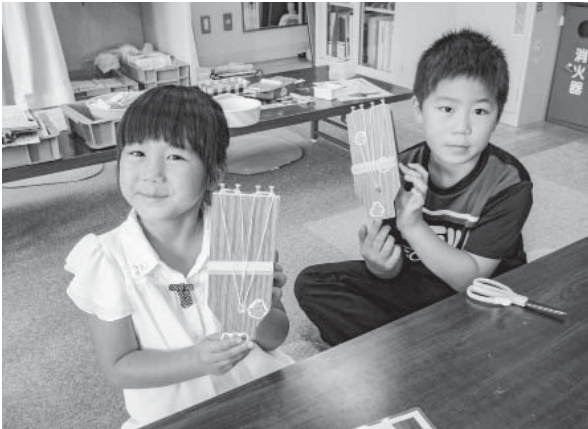
り」「まほろん福箕づくり」「顔料描画体験」「ミニ琴づくり」「古墳時代の冠づくり」「おきあがりこぼしづくり」は、体験活動室メニューとしては新しいメニューであり、その他のメニューについても、新たな要素を盛り込んで実施した。

体験活動室メニューの実施状況

メニュー	内 容	参加人数
通年	勾玉づくり	1,189名
	管玉づくり	39名
	火おこしに挑戦しよう	1,808名
	まほろんクイズラリー	1,796名
思い出の組紐と栞	組紐ミサンガづくり	132名
	土器文様拓本で栞づくり	203名
飾って、変わって、端午の節句	縄文時代の衣装体験	86名
	室町時代の衣装体験	229名
	かぶれる鯉のぼりづくり	134名
装着！伝統技術	アクセサリーづくり	115名
	腰文づくり	27名
	たがプレスレットづくり	102名
巻き編みでフォーチュンキャッチ	蒔絵風缶バッジづくり	179名
	腰文づくり	24名
真夏のわくわく体験	まほろん福箕づくり	50名
	ござ目編みコースターづくり	147名
墨と顔料で描こう	七夕飾りづくり	77名
	団扇づくり	409名
奏でよう古代の音	施文原体ペンダントづくり	392名
	顔料描画体験	63名
めざせ！埴輪名人	墨流し栞づくり	175名
	腰文づくり	68名
年の瀬クラフト	ミニ琴づくり	244名
	切り絵づくり	119名
	ミニ埴輪づくり	224名
正月遊び	古墳時代の冠づくり	95名
	アンギン編み体験	9名
	ミニしめ縄づくり	118名
ガラス玉づくりに挑戦	ミニ門松づくり	206名
	ずぼんぼりづくり	129名
土の息吹と春の香り	凧づくり	214名
	羽子板づくり	254名
おきあがりこぼしづくり	ガラス玉づくり	243名
	お面づくり	124名
合計	お雛様づくり	84名
	匂袋づくり	219名
	おきあがりこぼしづくり	253名
	合計	9,979名



「組紐ミサンガづくり」



「ミニ琴づくり」

2) 臨時の個人来館者対応の体験メニュー

まほろんイベントや小中学校の夏休み期間において、特別に実施する体験メニューである。

平成29年度は、表に示した29種類の臨時体験メニューを実施した。

臨時の個人来館者対応の体験メニュー

内容	参加人数	内容	参加人数
縄文土器レリーフづくり	114名	マイバックづくり	68名
葉玉づくり	163名	織物体験	60名
ミニ発掘体験	351名	はにワーク	176名
縄文風プレスレット	294名	勾玉づくり	286名
縄文風ペンダント	511名	鍛冶体験!	48名
カフェ・ド・縄文	338名	鋳込み体験!	74名
弓矢体験	1,312名	カスタネットをつくろう	202名
大珠づくり工房	305名	笛をつくろう	50名
多色刷版画ラリー	422名	ハニワだらけのすもう大会	26名
クイズラリー	427名	スノードーム	100名
ロクロde絵付け	130名	福島発?らくがきせんべい	343名
3D画像体験	519名	手作りパチンコ「福」はうち?	428名
フルってさがそう!!	122名	火おこし体験	127名
リアル宝探し	243名	お面づくり	170名
象嵌アクセサリー	54名	合計	7,463名



「勾玉づくり」(ありがとう50万人!まほろん大感謝祭)

3) 団体来館者対応の体験メニュー

事前予約の必要な団体来館者向けの体験メニューである。平成29年度は、全16種類の体験メニューを企画したが、「昔の火おこしをみてみよう」「昔のあそび・昭和のあそび」「本格的な土器づくり」「アンギン編みに挑戦」は、利用実績が無かった。また、高齢者施設や支援施設等の通常の団体メニューを実施することが困難な団体に関しては、表の網掛け部分に示したような、体験活動室メニューや特別体験メニュー等を団体用にアレンジして実施した。

団体来館者対応の体験メニュー

内容	参加人数	内容	参加人数	
勾玉づくり	2,601名	ドキ土器スタンプに挑戦	34名	
管玉づくり	76名	昔の道具にふれてみよう	1,283名	
火おこしに挑戦	4,000名	缶バッジづくり	10名	
土器や石器を観察しよう	1,807名	縄文風プレスレットづくり	8名	
土笛づくり	58名	組紐ミサンガづくり	31名	
ミニチュア埴輪づくり	367名	かぶれる鯉のぼりづくり	26名	
ミニチュア土器づくり	137名	弓矢体験	7名	
土偶ペンダントづくり	55名	ミニしめ縄づくり	8名	
じょーもんファッション	42名	ミニ門松づくり	8名	
拓本に挑戦	16名	お雛様づくり	6名	
			合計	10,580名



「火おこしに挑戦」

(2) 募集型体験学習メニュー

1) 実技講座

出土品や日本の伝統文化に関連した「モノづくり」を体験することで、文化財への理解や愛着を深めることを目的とした講座である。

平成29年度は、6講座(全14回)を実施した。「昔のはきものづくり」は、今年度からの新講座で、稲わらを編んで草履を製作した。「鏡づくり」は、今年度復活した鋳造の講座で、当館収蔵の平安時代の鏡をモデルに製作した。

実技講座実施状況

講座名	実施日	参加人数
家族で土器づくり	平29. 6.11	15名
カラムシから布をつくろう①刈り取り・おひき	平29. 7. 9	13名
カラムシから布をつくろう②糸づくり	平29. 7.23	13名
カラムシから布をつくろう③布づくり	平29. 8.27	13名
鏡づくり	平29.10. 9	6名
竹かごづくり①材料採取・加工	平29.11.12	16名
竹かごづくり②底編み	平29.12. 3	10名
竹かごづくり③立ち上げ	平29.12.17	15名
竹かごづくり④縁巻、補修	平29.12.24	14名
縄文土器づくり上級編①形づくり	平30. 1.20	12名
縄文土器づくり上級編②文様づけ	平30. 1.21	10名
昔のはきものづくり①素材加工・編み	平30. 2. 3	12名
昔のはきものづくり②編み・整形	平30. 2. 4	12名
縄文土器づくり上級編③野焼き	平30. 2.25	9名
合計		170名



「昔のはきものづくり」

2) まほろんイベント

文化財の魅力とまほろんの活動を広く県民に伝え、利用者の幅を広げることを目的として実施するイベントである。

平成29年度は、6回実施した。「ありがとう50万人！まほろん大感謝祭」は、来館者50万人達成を記念したイベントで、通常秋に1日だけ行っていた「まほろん感謝デー」を拡大し、2日間の開催とした。

「野外展示と植物の観察会」は、まほろんボランティアを主体に実施したイベントで、春と秋の2回実施した。

まほろんイベント実施状況

イベント日	実施日	参加者数
GWまほろんまつり	平29. 5. 4～6	1,846名
野外展示と植物の観察会(春)	平29. 6. 4	19名
まほろん夏まつり	平29. 7.30	625名
野外展示と植物の観察会(秋)	平29.10. 1	29名
ありがとう50万人！まほろん大感謝祭	平29.11.18・19	1,052名
まほろん冬まつり	平30. 2.18	890名
合計		4,461名



「ありがとう50万人！まほろん大感謝祭」

3) まほろん森の塾

まほろん森の塾は、今回で17期となる。例年昔のくらしや技術を体験することで、参加者が生きる力を身に着けることを目的に実施していたが、平成29年度は、企画展の「はにわ行進曲」への展示協力と塾生による展示解説会を含む、文化財普及活動への参加に重点をおいたものとなった。

全6回を実施し、第5回の「まほろん森の塾生のはにわ解説会」にむけて、古墳時代と埴輪について勉強し、展示解説用のキャプションや衣装、楽器等を準備して、本番を迎えた。

まほろん森の塾実施状況

内容	実施日	参加人数
第1回 入塾式	平29. 6.25	5名
第2回 衣装・楽器づくり	平29. 8. 6	5名
第3回 企画展示パネルの構想	平29. 8.20	2名
第4回 はにわ解説会準備・リハーサル	平29. 9.24	4名
第5回 まほろん森の塾生のはにわ解説会	平29.10. 1	4名
第6回 終了式	平29.10.29	3名
合計		23名



まほろん森の塾

(3) 館外体験学習事業

本事業は、県内の学校や公民館などの生涯学習施設における体験学習を支援することを目的とした事業である。原則的には、白河館へ来館することが困難な学校や諸施設へ、館の職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて出向き(「ネットでもほろん」を除く)、文化財や地域の歴史に対する理解を深めるための事業である。

1) おでかけまほろん

小中学校などの教育機関を対象としたプログラムで、学校の先生と学芸員が協力して授業を行い、平成29年度は、35箇所(38校)で実施した。実施した体験活動の内容は、「土器や石器を観察しよう」「火おこしに挑戦」「弓矢体験」「時代衣装」である。



おでかけまほろん

2) まほろん出前講座

公民館などの生涯学習施設における「子どもクラブ」や「高齢者学級」等を対象としたプログラムである。平成29年度は、いわき市・国見町・桑折町・棚倉町の4市町5箇所で開催した。実施した体験活動の内容は、「土器や石器を観察しよう」「火おこしに挑戦」「弓矢体験」「時代衣装」「拓本体験」「土笛づくり」である。

3) まるごとまほろん

地域住民を対象とする行事において、白河館が収蔵する考古資料の展示や体験学習などを行うプログラムである。平成29年度は、福島民報社、須賀川市文化スポーツ部、福島県青少年会館、国立磐梯青少年交流の家、大玉村あだたらふるさとホール、国立那須甲子青少年自然の家が主催した6箇所6回のイベントに参加した。

4) ネットでもほろん

遠隔地の学校や、障がいを持っているため来館して体験活動を行うことが困難な学校を対象としたプログラムである。白河館と会場をインターネット回線によるテレビ電話で結び、授業を行うものであるが、平成29年度は対象となる学校で「おでかけまほろん」を実施したため、本プログラムの利用はなかった。

おでかけまほろん

番号	学校名	学年・科目	内容	実施日	参加人数
1	会津坂下町立坂下南小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.4.12	90名
2	喜多方市立上三宮小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.4.13	9名
3	相馬市立中村第一小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.4.19	67名
4	田村市立常葉小学校	小6年、社会	土器石器観察・弓矢・時代衣装	平29.4.20	22名
5	喜多方市立堂島小学校	小6年、社会	土器石器観察・勾玉	平29.4.26	8名
6	二本松市立石井小学校	小6年、総合	土器石器観察・勾玉	平29.4.27	34名
7	二本松市立杉田小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.4.27	29名
8	田村市立関本小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.5.10	7名
9	柳津町立柳津小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.5.10	11名
10	本宮市立白岩小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.5.17	32名
11	会津若松市立小金井小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.5.24	100名
12	南会津町立館岩小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.5.25	9名
13	磐梯町立磐梯第二小学校	小6年、社会・総合	土器石器観察・火おこし	平29.5.31	7名
14	伊達市立伊達小学校	小6年、社会・総合	土器石器観察・火おこし	平29.6.1	66名
15	二本松市立原瀬小学校	小1～6年、生活・総合	土器石器観察・火おこし・勾玉	平29.6.7	46名
16	二本松市立新殿小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.6.8	11名
17	磐梯町立磐梯第一小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.6.14	18名
18	田村市立美山小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.6.15	13名
19	北塩原村立裏磐梯小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.6.21	7名
20	二本松市立油井小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.7.5	71名
21	伊達市立堰本小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.8.30	14名
22	二本松市立旭小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.9.6	9名
23	双葉町立双葉南小学校・北小学校	小6年、社会	土器石器観察・弓矢	平29.9.7	5名
24	喜多方市立松山小学校	小6年、社会・総合	土器石器観察・火おこし	平29.9.14	20名
25	二本松市立渡川小学校	小6年、社会	土器石器観察・勾玉	平29.9.20	22名
26	飯館村立草野・飯樋・白石小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.9.21	20名
27	田村市立西向小学校	小6年、総合	土器石器観察・勾玉	平29.9.27	8名
28	伊達市立上保原小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.10.4	33名
29	福島県立会津支援学校竹田分校	小6年、中1・2年、社会・美術・図工	土器石器観察・勾玉	平29.10.5	6名
30	喜多方市立豊川小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし	平29.10.11	27名
31	いわき市立いわき支援学校くぼた校	高1年、総合	土器石器観察・勾玉	平29.10.12	11名
32	伊達市立伊達東小学校	小6年、社会	土器石器観察・火おこし・勾玉	平29.11.15	15名
33	福島県立聴覚支援学校会津校	小2・5年、生活・社会	土器石器観察・火おこし・時代衣装	平29.11.16	2名
34	福島県立あぶくま支援学校	中3年、生活	土器石器観察・火おこし・弓矢・時代衣装	平29.11.22	25名
35	福島県立須賀川支援学校	小5年、中1・3年、社会・総合	土器石器観察・弓矢・勾玉・時代衣装	平29.12.20	18名
合計					892名

まほろん出前講座

番号	団体名	学年・年齢	内容	実施日	人数
1	いわき市立四倉公民館	小4～6年	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.9.9	43名
2	国見町あつかし歴史館	小1～5年、一般	土器石器観察・火おこし・弓矢	平29.9.17	13名
3	桑折町立睦合公民館	小4～6年	土器石器観察・時代衣装など	平29.11.5	10名
4	いわき市立小川公民館	小1～5年	土器石器観察・火おこし・拓本	平29.11.11	28名
5	棚倉町子どもセンター	小1～6年	土器石器観察・火おこし・土笛	平30.3.27	29名
合計					123名

まるごとまほろん

番号	団体名	年齢	内容	実施日	人数
1	福島民報社・うすい百貨店	未就学児～一般	勾玉・缶バッジづくり	平29.8.8～8.13	1,538名
2	須賀川市文化スポーツ部	未就学児～一般	弓矢	平29.10.8	704名
3	福島県青少年会館	未就学児～一般	ミニチュア埴輪づくり	平29.10.22	92名
4	国立磐梯青少年交流の家	未就学児～一般	土器石器観察・昔の遊び	平29.10.22	326名
5	大玉村あだたらふるさとホール	小学生・一般	土器石器観察・勾玉・弓矢・火おこし・缶バッジづくり	平29.10.28～10.29	409名
6	国立那須甲子青少年自然の家	未就学児～一般	弓矢	平29.10.29	448名
合計					3,517名

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

平成29年度のホームページアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は46,602件であった。前年度（47,999件）より減少しているものの、平成27年度以降は一貫して46,000～48,000件で推移しており、当館のホームページのアクセス数として、ほぼ平均的な水準を維持していると言える。

なお、平成13年7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、72万件を超えた。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,748	678,942
5月	4,646	683,588
6月	3,968	687,556
7月	4,039	691,595
8月	4,050	695,645
9月	4,265	699,910
10月	3,514	703,424
11月	3,934	707,358
12月	3,440	710,798
1月	3,135	713,933
2月	3,474	717,407
3月	3,389	720,796
合計	46,602	

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成29年度の総アクセス数は138,908件と、前年度（128,496件）より増加した。東日本大震災後の復興関連で一時、遺跡データベース等への需要が急激に増加した時期と比べると少ない水準であるが、データベースの公開件数が毎年増えるにしたがい、アクセス数も少しずつだが着実に増加していると考えられる。

なお、平成29年度の月ごとの各データベースのアクセス数は、別表のとおりである。

データベースアクセス数

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	文献	写真
4月	2,498	720	998	419	361
5月	6,326	1,348	3,428	1,032	518
6月	7,538	1,925	3,265	979	1,369
7月	9,186	3,857	3,237	1,006	1,086
8月	10,060	3,474	3,356	1,903	1,327
9月	7,237	2,414	2,734	1,252	837
10月	20,540	5,339	10,561	2,889	1,751
11月	19,003	5,046	10,299	2,042	1,616
12月	19,998	4,662	11,546	1,954	1,836
1月	10,177	1,825	6,890	766	696
2月	10,993	2,082	6,304	1,349	1,258
3月	15,352	2,783	9,486	1,644	1,439
合計	138,908	35,475	72,104	17,235	14,094

(2) データの入力

新規入力数（テキスト）を別表として示した。合計入力数は4,015件である。

データ入力一覧

種類	入力数	累計（点）
遺跡（基本データ）	10	13,851
遺跡（調査台帳）	32	4,451
遺物	2,917	265,399
遺物写真	0	20,245
写真	1,056	62,366
文献	0	18,606
合計	4,015	384,918

3. まほろん通信の発行

平成29年度は、年4回発行した。発行日は、4月14日・6月30日・9月29日・1月12日で、各4,000部を発行した。概要は、以下のとおりとなっている。

- （1）まほろん通信vol.63（春号4月14日発行）
- ・特集「5分でわかる縄文時代の三ツ星★★★料理」
- ・シリーズまほろんのヒミツ5「体験メニュー開発の舞台裏に迫る！之巻」

- ・シリーズまほろん回顧録1「まほろん『勾玉づくり』事始め」
- ・コラム「筑内古墳の銅釧について」
 (2)まほろん通信vol.64(夏号6月30日発行)
- ・特集「植物利用に込められた暮らしの知恵」
- ・シリーズまほろんのヒミツ6「まほろんショップ“いちおし”！之巻」
- ・シリーズまほろん回顧録2「まほろん『火おこし』ものがたり」
- ・コラム「技術(わざ)の記録と復元について」
 (3)まほろん通信vol.65(秋号9月29日発行)
- ・特集「『はなわ』じゃないよ『はにわ』だよ」
- ・シリーズまほろんのヒミツ7「まほろんは遺跡の上に建っている？之巻」
- ・シリーズ収蔵資料紹介25「正直A遺跡の紡錘車」
- ・コラム「秋の実りと縄文人」
 (4)まほろん通信vol.66(冬号1月12日発行)
- ・特集「被災文化財とまほろん」
- ・シリーズまほろんのヒミツ8「まほろんで時々流れる、あの音楽は？之巻」
- ・シリーズ収蔵資料紹介26「文字資料と地名」
- ・コラム「なぜ、まほろんは楽しいのか？」



「まほろん通信vol.66冬号」

6 文化財に関する研修事業

1. 研修事業の概要

市町村・団体の職員や教職員等を対象に、文化財保護・活用等に必要な知識と技術を習得するための研修を行った。

研修は、受講者の習熟度に応じて、「基礎研修」「専門研修」と、多目的な要望に応えるため臨時に館内や館外で行う「特別研修」に区分して実施した。

2. 研修実施状況

(1) 基礎研修

5回の基礎研修を実施した。

①「考古資料研修」は、白河館に収蔵する考古資料の中で、基準になる資料をもとに、各時代の基礎知識を学ぶ研修である。縄文土器の観察に必要な知識と、写真撮影・実測図作成・記述の視点について、当館職員が解説した。

②「文化財保護・活用基礎研修」は、文化財保護に必要な調査・保管・活用等に関わる基礎知識についての研修である。今回は、文化財の安全を確保するための資料のクリーニング方法、運搬する際の梱包方法、資料の見せ方と固定方法、脱酸素剤を用いた保管方法について、実習を交えながら、当館職員が解説した。



文化財保護・活用基礎研修

③「無形の文化財研修」は、衣食住などの身近な生活や、農業・漁業などの生産活動と古くから結びついてきた、様々な道具をつくる伝統の技術について、その記録と保存のあり方を、

当館職員が解説した。

④「教職員等発掘調査体験研修」は、教職員や文化財を担当する職員等を対象に、例年夏休みの期間に開催しているもので、今回は、会津坂下町稲荷塚遺跡の発掘調査現場を会場とした。研修では、弥生時代後期～古墳時代初頭の方形周溝墓の発掘調査の方法を実地で学んだほか、会津坂下町中央公民館分室考古資料展示室で、町の担当者から町内出土資料の説明を受けながら、展示の見学を行った。



教職員等発掘調査体験研修

⑤「地方史研修」は、県内各地の地方史を学ぶ研修である。今回は、白河市建設部文化財課の石井洋光氏を講師とし、1950年（昭和25年）に発掘調査され、出土した土器が「天王山式土器」の名称で、東北地方南部の弥生時代後期の標識資料になっている、白河市天王山遺跡の最新の調査成果を学んだ。

文化財研修実施状況

区分	研修名	講師	実施日	受講者数	場所
基礎研修	考古資料研修「縄文土器の観察－資料化の視点－」	本間 宏 (当館学芸課長) 香川慎一 (当館学芸課副幹) 佐藤 啓 (当館専門学芸員)	平29.4.29	7名	当館
	文化財保護・活用基礎研修「文化財の梱包・展示・安定化の基礎知識」	吉田 功 (当館学芸課主幹) 佐藤 啓 (当館専門学芸員) 山内幹夫 (当館嘱託)	平29.5.13	4名	当館
	無形の文化財研修「伝統技術を伝えるために」	大山孝正 (当館専門学芸員)	平29.7.1	4名	当館
	教職員等発掘調査体験研修	國井秀紀 (当館専門学芸員) 三浦武司 (当館専門学芸員) 平間堯明 (当館学芸員) 太田勇陽 (当館学芸員)	平29.8.2～4	延べ11名	会津坂下町
	地方史研修「白河市天王山遺跡の謎」	石井洋光 (白河市建設部文化財課)	平30.2.24	24名	当館
専門研修	文化財と関連科学研修「文化財非破壊分析の手法」	奥山誠義 (奈良県立橿原考古学研究所)	平29.9.9	16名	当館
	文化財保護・活用専門研修「木製品・金属製品の取り上げと保存」	中尾真梨子 (公益財団法人福島県文化振興財団)	平29.9.9	14名	当館
	文化財保護指導者研修会	阿部浩一 (福島大学行政政策学類) 大栗行貴 (国見町まちづくり交流課) 大里正樹 (福島県立博物館学芸員) 國井秀紀 (当館専門学芸員)	平29.10.24～25	延べ149名	会津若松市
	考古学専門研修「はにわの世界－その意味を読み解く－」	若狭 徹 (明治大学文学部)	平29.10.28	31名	当館
特別研修	職員派遣研修「縄文土器から探る地域間交流」	三浦武司 (当館専門学芸員)	平29.6.18	55名	福島市
	職員派遣研修「身近なものから暮らしの移り変わりを見直す」 「ものづくりから製作技術を知る」	大山孝正 (当館専門学芸員) 國井秀紀 (当館専門学芸員)	平29.11.30	18名	昭和村

(2) 専門研修

4回の専門研修を実施した。

①「文化財と関連科学研修」は、考古資料の分析や保存などに関する科学的知識を学ぶ研修である。文化財の保全に先立って必要な材質・成分分析の種類と光音響分光分析法などの非破壊分析の事例、分析できる文化財の種類、各種分析の長所と短所、分析結果に基づく保存手法のプランニング事例などについて、奈良県立橿原考古学研究所の奥山誠義氏が解説した。

②「文化財保護・活用専門研修」は、文化財保護に必要な調査・保管・活用等に関わる専門的知識・技能を習得する研修である。今回は、当財団の保存処理担当職員が、発掘調査において、木製品・金属製品・動植物遺存体などが出土した場合の応急措置とその後の保存方法について解説した。

③「文化財保護指導者研修会」は、市町村の文化財保護審議会委員等を対象に、毎年会場を変えて行う研修会である。今年度は、会津若松市の福島県立博物館を会場として実施した。未指定文化財の保護について、福島大学行政政策学類の阿部浩一氏が発表し、国見町の「まるごと博物館事業」について、同町の大栗行貴氏が紹介した。その他、当館職員が、課題となっている民具づくりの技の記録と復元について解説し、福島県立博物館の大里正樹氏が震災遺産の保全について紹介した。また、県立博物館で開催中だった企画展「発掘ふくしま4」を見学した。

④「考古学専門研修」は、企画展「はにわ行進曲」に関連した研修である。明治大学文学部の若狭徹氏を講師とし、埴輪の変遷や、埴輪に表現された意味を読み解きながら、埴輪研究の到達点と古墳時代の実像を解説した。



考古学専門研修

(3) 特別研修

上記の研修のほか、別表に示した職員派遣研修を2回実施した。

職員派遣研修は、市町村等の要請に応じて随時職員を派遣し、体験学習支援や地域史理解などに関する研修を行うものである。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 放射性炭素年代測定と炭素窒素安定同位体比分析

白河館に収蔵されている土器に付着した炭化物について、加速器質量分析による放射性炭素年代測定を実施して、その年代的位置を明らかにし、測定年代に必要な炭素・窒素安定同位体比分析も併せて実施する事業である。

分析は、平成26年度から平成30年度までの5箇年継続して行うこととし、4年度目の平成29年度は、弥生時代を中心に縄文時代晩期中葉から古墳時代前期までの土器40点について付着炭化物の分析を実施した。分析結果については、『研究紀要2017』に掲載し、その結果を公開した。

2. 研究紀要

専門職員が行う館業務の過程での研究や、収蔵資料等に関することなどの調査研究の成果を『研究紀要2017』に掲載し、発行した。

8 ボランティアの運営

1. 募集

平成29年度は、前年同様、ボランティアの募集を随時、登録を月毎に行った。

申し込み資格は、①平成29年4月1日現在で16歳以上、②無償で活動できる方（保険料は当館負担）である。

2. 登録

当館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」とする。ボランティアの登録状況は下表のとおりである。

まほろんボランティア登録状況

平成29年度登録者数	21名 (男性12名・女性9名)
内訳	
1. 最年少	21歳
2. 最年長	89歳
3. 平均年齢	64歳 (男67歳、女60歳)
(平成30年3月31日現在)	

3. 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 展示への参加
- 体験学習（実技講座・団体等）の協力
- イベントの自主企画及び運営
- 体験学習器材の製作
- 野外展示施設の燻蒸補助
- 「野外展示と植物の見学会」の開催
- 図書の新着
- 竹カゴづくり



ボランティアの企画による紙芝居（まほろん冬まつり）

4. 受け入れ体制

白河館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休息室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、本年度は計8回のまほろんボランティア説明会・連絡会及び研修会を開催した。

9 その他

1. 年報2017の発行

当館の平成28年度1年間の活動をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター白河館運営協議会は、館長の諮問機関であり、会議を年2回開催している。

なお、平成29年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：元弘前大学教授、再任
- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任

- ・平出美穂子：元郡山女子大学准教授、再任
- ・芳賀 祐司：西白河小中学校長連合協議会長
- ・鈴木 隆之：白河市建設部文化財課長
- ・宮崎 康之：国立那須甲子青少年自然の家所長

(1) 第1回運営協議会

開催日：平成29年10月7日（土）

場所：講堂

議事

- ・平成28年度白河館の事業実績について
- ・平成29年度白河館の運営状況について
- ・平成30年度白河館の事業について
- ・その他

(2) 第2回運営協議会

開催日：平成30年3月3日（土）

場所：講堂

議事

- ・平成29年度白河館の運営状況について
- ・平成30年度白河館の事業について
- ・その他

3. 博物館実習

県内の大学生、県内出身者で県外の大学に通う大学生を対象として、白河館内において博物館実習を行った。

4. 被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

原子力災害によって帰還困難区域・居住制限区域となっている双葉郡内の資料館の文化財等を、白河館に設置された仮保管施設に保管して、資料の修理・安定化、応急的措置・保存作業を行い、安定した収蔵環境において資料を配置・保管する作業を実施した。

5. 他機関との連携

社会教育施設等と連携して、以下の事業を実施した。

(1) 福島県立図書館との連携

1) まほろん移動展「縄文土器の年代Ⅱ－縄文中期の世界に迫る－」

会期：平成29年6月2日（金）～7月5日（水）
（開催日数29日）

場所：福島県立図書館（福島市）エントランス
展示コーナー

観覧者：1,484名

2) 移動図書館（あづま号）コーナー設置及び
ミニ展示「なつかしの教科書たち」の開催

実施日：平成30年2月18日（日）「まほろん冬
まつり」

場所：白河館正面玄関前ほか

（2）ふくしま海洋科学館との連携

1) 移動水族館（アクアラバン）開催

実施日：平成29年11月18日（土）・19日（日）
「ありがとう50万人!まほろん大感謝
祭」

場所：白河館体験広場

（3）シンポジウムの共催

内容：ふくしま歴史資料保存ネットワーク主催
シンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、
伝える—歴史・文化・震災遺産の保全と
活用の今—」

実施日：平成29年6月17日（土）

場所：郡山市民プラザ大会議室

参加者：111名

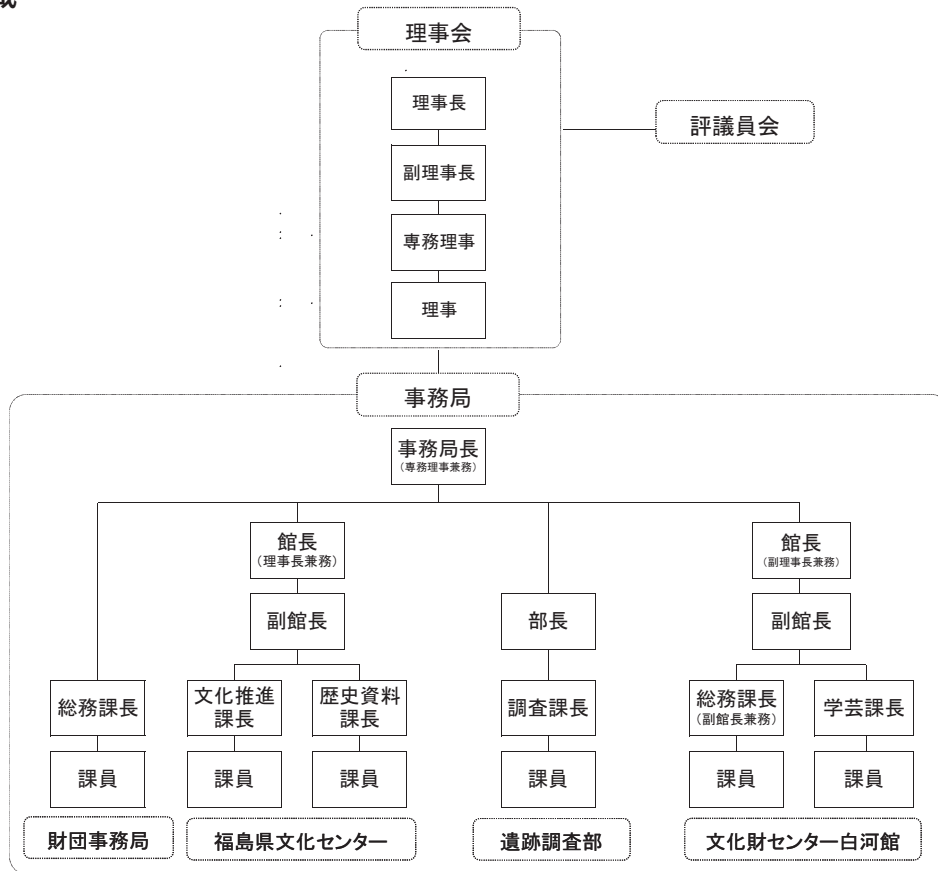
（4）その他

1) 国立那須甲子青少年自然の家・国立磐梯青
少年交流の家と連携し、イベント開催時に相互
に体験ブースを設置した。

2) 福島県被災文化財等救援本部による被災文
化財保護活動に参加した。

第3章 平成29年度の組織と管理運営費

1 組織



職員名簿

職名	氏名	職名	氏名	
館長	菊池 徹夫	専門学芸員	大山 孝正	
副館長	鵜澤 義孝	専門学芸員	阿部 知己	
総務課	課長(兼務)	鵜澤 義孝	専門学芸員	笠井 崇吉
	主幹	鈴木 智子	専門学芸員	三浦 武司
	主査	八巻 裕美子	学芸員	福田 梨沙
	臨時職員	鈴木 智子	学芸員	平間 堯明
	臨時職員	金澤 明希	学芸員	太田 勇陽
	課長	本間 宏	嘱託	山内 幹夫
学芸課	主幹	吉田 功	臨時職員	猪股 あかね
	副主幹	香川 愼一	臨時職員	河西 久子
	専門学芸員	小暮 伸之	臨時職員	大越 亜由美
	専門学芸員	佐藤 啓	臨時職員	高木 茜音
	専門学芸員	國井 秀紀	臨時職員	渡邊 あかり
			職員総数	25名

(平成30年3月31日現在)

2 管理運営費

- ・指定管理者委託料 240,654千円

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館
 (愛称：まほろん)
 所在地：〒961-0835
 福島県白河市白坂字一里段86番地
 設置者：福島県
 開館：平成13年7月15日
 管理機関：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
 体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
 (本館2,400.046㎡、収蔵庫棟 2,999.769㎡)
 体験学習館 92.71㎡
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台 (うち身障者用4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③職員駐車場 21台
 - ④駐輪場 28台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換機、外線4回線、内線55回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備
 - ・空調方式
 一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式 (一部空冷HP) + 静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト (空冷冷専パッケージ+電気ヒーター+アルカリ除去フィルターユニット) 方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト (ガスエンジンHPP) 方式
 - ・熱源：簡易ガス (ガス種別：プロパン)
3. 衛生設備
 - ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水：屋内分流・屋外合流 (最終桝でポンプアップ) 方式で下水道本管へ放流
 - ・雨水：側溝放流
 - ・多目的便所：屋内1箇所 (男女別)、屋外1箇所 (男女別)、トイレ呼出設備付

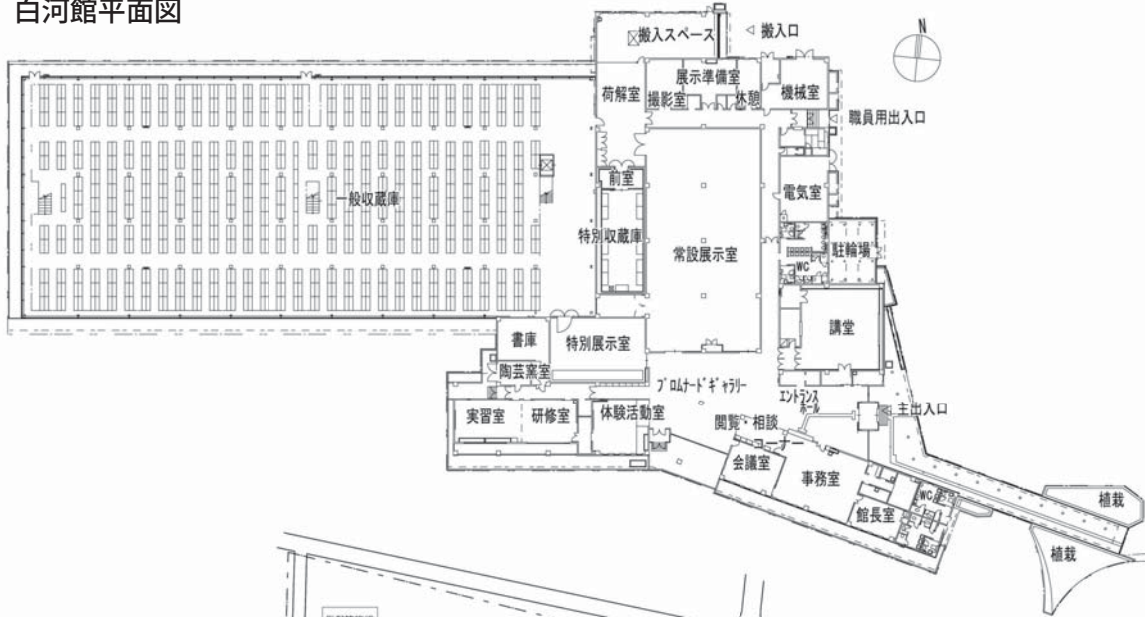
◎建築工事工期

- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

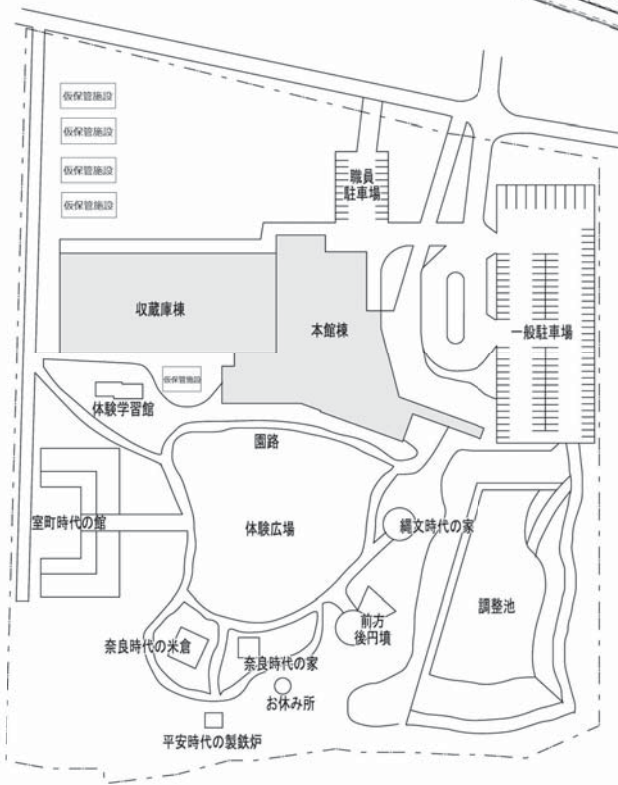
◎総建設費 3,300,625千円

- ・内訳 建築費 2,690,848千円
- 公有財産購入費 222,095千円
- その他の経費 387,682千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263㎡
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	889	5棟 (194㎡×4棟+113㎡)

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

一 第三条各号に掲げる業務に関すること。

二 白河館の維持管理に関すること。

三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。

3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七年条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八年条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。（施行の日＝平成一三年七月一五日）

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

まほろんの利用案内

開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12月28日～1月4日）

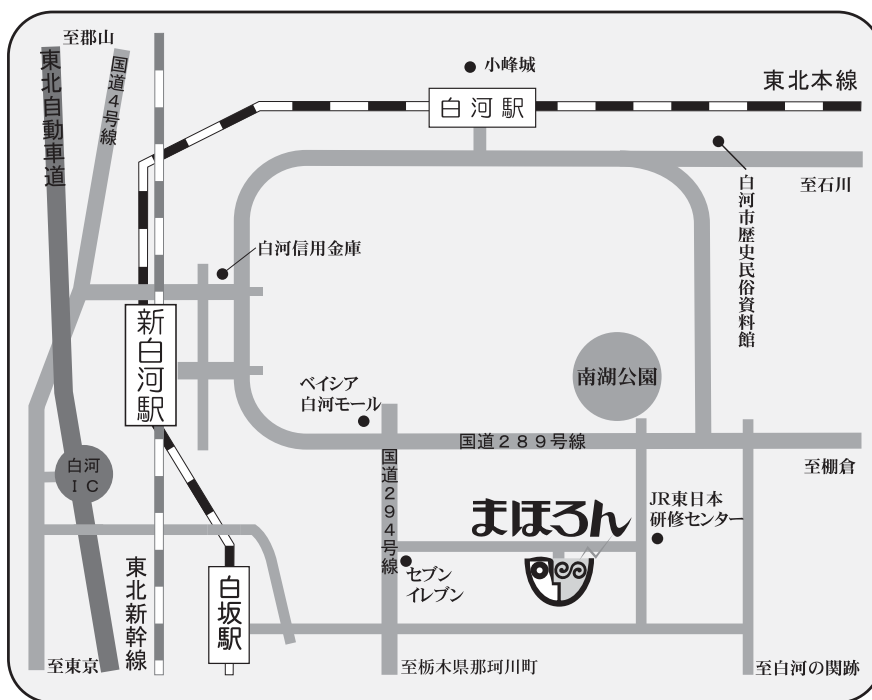
入 館 料 ・ 無料

交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまたは、福島交通バス（白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅からJRバス（棚倉行き）南湖公園バス停下車徒歩25分

・ 東北自動車道白河I.C. から車で20分

そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2018

平成30年9月28日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<http://www.mahoron.fcp.or.jp>
